茨城県新治村

田宮梶の宮遺跡

－　発掘調査報告書　－

平成13年３月

田宮梶の宮遺跡発掘調査会

序

自然に恵まれた新治村は、遺跡の数では県内でも随一であり、「自然と歴史の村新治」に高い誇りと郷土新治村のすばらしさを感じるわけであります。

時代の新しい流れは、また新しい歴史を生みだします。そして、残された遺跡や遺物に新しい光を与えることによって今までと異なった価値と意義も生まれます。

この度の田宮梶の宮遺跡の発掘調査は、「土浦土地改良事務所によるふるさと農道整備事業」に伴い事前に造成地内遺跡の発掘調査を行い、記録保存を図ることでありました。

土浦土地改良事務所の委託を受けて、田宮梶の宮遺跡発掘調査会を発足し、平成12年10月28日より平成13年３月20日迄を調査期間として、発掘調査が行われました。

調査結果として検出された遺構として方形周溝墓３基（古墳時代前期から中期頃）、住居跡13軒（弥生時代後期３軒、古墳時代前期２軒、奈良・平安時代８軒）、陥し穴９基（縄文時代前期）、土坑18基、溝４条、道跡１条が明らかになりました。縄文時代から奈良・平安時代にわたっての複合遺跡であり各時代の人々の生活を想像するとき、さまざまな古代へのロマンが広がって参ります。

この調査に当たられた山武考古学研究所の方々始め、関係の皆様方に心から感謝申し上げます。また先人達の遺された姿を後世に語り、伝える貴重な資料として残される事は意義深いものがあり、事業者である土浦土地改良事務所に心から感謝申し上げ発刊のごあいさつといたします。

平成13年３月

田宮梶の宮遺跡発掘調査会長
新治村教育委員会教育長　林　久義

例　　言

1．本書は、茨城県新治郡新治村大字田宮地内に所在する田宮梶の宮遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、ふるさと農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。

3．調査は、田宮梶の宮遺跡発掘調査会の依頼を受けて、山武考古学研究所が行なった。

4．遺跡の所在地・面積及び調査期間・調査担当者は下記の通りである。

遺 跡 名　　田宮梶の宮遺跡

所 在 地　　茨城県新治郡新治村大字田宮字篠臺921外

調査面積　　1,520㎡

調査担当　　高野浩之（山武考古学研究所調査研究員）

　　土生朗治（山武考古学研究所調査研究員）

5．整理調査は、執筆を高野が行い、土生が補佐した。調査時は片岡美和子・藤井陽子・末廣弘子の協力を得た。

6．本遺跡の出土遺物、写真、図版等の資料は、新治村教育委員会が保管する。

7．発掘調査及び整理調査において、下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝の意を表するものである。(順不同・敬称略)

土浦土地改良事務所　新治村教育委員会　茨城県教育庁文化課　(財)茨城県教育財団　小松崎猛彦
海老澤稔　大関　武　小澤重雄　瓦吹　堅　塩谷　修　赤井博之　伊藤三雄　稲田健一　矢口修一
大竹直司　(有)新成田総合社　(株)東日本重機　開成測量(株)　ＪＴ高橋

8．発掘調査参加者は下記の通りである。(順不同)

飯村　清　町田泰秀　柳田英子　松戸和彦　岡田義雄　岡本武雄　山本喜美子　栗原みよ　石田春江
宮本みつ　宮本行祥　岡田みえ子　飯村寅雄　飯村ゆわ　飯村綾子　中山　真　山本清寿　野口全弘
伊藤久江　関口雅子　遠藤かづ江　二川一義　野口雅子　田上源吾

凡　　例

1．位置図、地形図及び遺構実測図の方位は全て座標北を示す。

2．遺物写真の縮尺は、原則的に挿図の縮尺と一致している。

3．遺物番号は通しで、台帳番号と一致している。

4．挿図中の遺物には口径、器高、底径値（ただし（　）は推定値）をcm単位で記入した。

5．遺物観察表、遺物注記で使用した遺構の略号は以下の通りである。

竪穴住居跡…ＳＩ　土坑…ＳＫ　溝…ＳＤ　方形周溝墓…方周

6．図の中で使用したスクリーントーンは以下の通りである。

炉・焼土・赤彩　　土器の黒色処理

目　　次

序
例言
凡例
目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
　1　調査経緯……1
　2　調査経過……1
　3　調査方法……1
Ⅱ　基本堆積土層……2
Ⅲ　遺跡の位置と環境……3
Ⅳ　調査の成果……7
　1　遺跡の概要……7
　2　遺構の概要……7
　　縄文時代……7
　　弥生時代……7
　　古墳時代……7
　　奈良時代……8
　　平安時代……8
　　中世……8
　3　出土遺物……9
　4　まとめ……10

挿図目次

第1図　グリッド設定図……2
第2図　基本堆積土層図……2
第3図　田宮梶の宮遺跡周辺の遺跡……3
第4図　田宮梶の宮地区採集遺物……4
第5図　田宮梶の宮遺跡の立地環境……4
第6図　田宮梶の宮遺跡遺構全体図……5
第7図　弥生時代の遺構……7
第8図　古墳時代の遺構……8
第9図　奈良時代以降の遺構……9
第10図　田宮窯跡産の可能性のある須恵器……10
第11図　茨城県内の大型方形周溝墓(方形墳)…10
第12図　陥し穴状遺構……11
第13図　弥生時代の竪穴住居跡……12
第14図　弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡……13
第15図　1・3号方形周溝墓・2号溝……14
第16図　2号方形周溝墓……15
第17図　奈良・平安時代の竪穴住居跡……16
第18図　奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世の道・溝・17
第19図　土坑……18
第20図　出土遺物（1）……20
第21図　出土遺物（2）……21
第22図　出土遺物（3）……22
第23図　出土遺物（4）……23
第24図　出土遺物（5）……24

表　目　次

表1　田宮梶の宮遺跡住居跡一覧表……18
表2　田宮梶の宮遺跡土坑一覧表……19
表3　田宮梶の宮遺跡遺物観察表（1）……24
表4　田宮梶の宮遺跡遺物観察表（2）……25
表5　田宮梶の宮遺跡遺物観察表（3）……26

写真図版目次

図版1　調査区全景
図版2　2号方形周溝墓
図版3　1号・3号方形周溝墓　1号・3号・5号～7号・14号住居跡
図版4　4号・9号～13号住居跡　3号・4号・7号・19号土坑
図版5　出土遺物
図版6　出土遺物

Ⅰ　調査に至る経過

1　調査経緯

平成６年３月９日、茨城県土浦土地改良事務所の行なう、ふるさと農道緊急整備事業新治地区工事の施工に伴い、当該工事区域内に埋蔵文化財包蔵地の有無について照会があり、平成６年３月28日、新治村教育委員会は工事区域内に周知の遺跡が確認される旨の回答をした。茨城県教育委員会と茨城県土浦土地改良事務所及び新治村教育委員会は埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行ない、平成７年３月９日・10日両日に事前調査を実施した。さらにこの事前調査を踏まえ、平成９年９月10日に現地調査・試掘を行なった結果、９か所の遺跡が確認された。工事区域は田宮梶の宮遺跡の一部であり、本格的な調査が必要であると判断され、新治村教育委員会は試掘の調査結果について茨城県土浦土地改良事務所へ通知した。茨城県教育委員会・茨城県土浦土地改良事務所及び新治村教育委員会は、文化財保護の立場から埋蔵文化財の取り扱いについて協議を重ねた結果、現状保存は困難と判断し、記録保存の措置を講ずることとなった。その後さらに協議を行い、茨城県土浦土地改良事務所は、平成12年度に発掘調査関連の予算を計上するとともに、新治村教育委員会は「田宮梶の宮遺跡発掘調査会」を発足させ、両者間において埋蔵文化財発掘調査に関する委託契約を締結し、平成12年10月28日から発掘調査を実施することとなった。

2　調査経過

10月下旬　28日より調査準備を開始した。調査区内及び残土置場の下草刈りを行なった。

11月上旬　１日・２日は調査準備を継続した。プレハブ・トイレ等施設と発掘器材を搬入した。
３日より表土除去を開始した。表土除去作業は残土処理の関係から、調査区の西側半分を南側から北方向へ進めていった。６日より調査補助員が着任し、休憩用施設を設営した後、遺構確認作業を開始した。遺構確認作業は既に表土除去が終了していた調査区南側より行なった。９日に表土除去を完了し、10日には遺構確認を終了した。この段階で竪穴住居跡12軒、溝状遺構２条、方形周溝状遺構２基を確認した。確認状況の写真撮影を行ない、遺構の調査を開始した。掘り下げは北側の遺構より行なった。

11月中旬　遺構の調査を継続した。北側の溝を調査し、方形周溝状の遺構であることが判明した。住居跡は１・３・５・７・９・13号の各住居跡を調査し、５・７号住居跡は弥生時代の住居跡であることが判明した。５号住居跡からは良好な資料を得ることができた。溝は１号溝の掘り下げを行ない、同時に、溝に近接した土坑の掘り下げを行なった。

11月下旬　遺構の調査を継続した。住居跡は２・４・５・６・８号の各住居跡を調査した。並行して２号方形周溝状遺構と２・３号溝の掘り下げを開始した。

12月上旬　遺構の調査を継続した。前半は４・６・10～12号住居跡の精査を中心に行ない、写真撮影及び完掘状況の実測を行なった。後半は２・３号方形周溝状遺構の掘り下げが中心となり、その結果、方形周溝墓であることが判明した。特に２号は非常に大型であった。また周溝下より陥し穴状遺構が確認され、調査区の北西方向へ連続していた。合計９基の掘り下げを行なった。

12月中旬　11・12日の両日、遺構全体図作成を行なった。また12日から13日にかけて、各遺構の精査を行ない、空撮のための準備を行なった。13日午後より空撮を実施した。並行して施設の撤去及び発掘器材の片付けを行なって、発掘調査の全工程を完了した。19日、調査会主催の現地説明会を行なった。

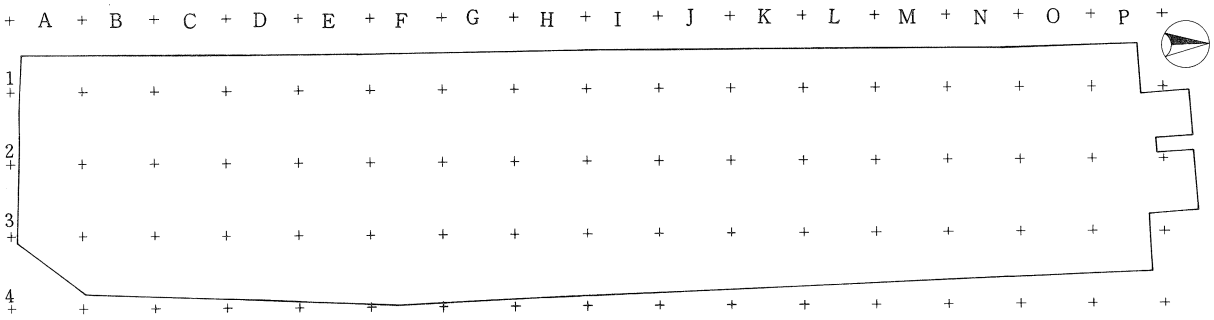
3　調査方法

調査の範囲は、新治村教育委員会によって実施された確認調査の成果に基づき、調査面積を1,520㎡として本調査を実施した。調査区内には、公共座標を用いて５ｍ×５ｍの方眼グリッドを設定した。グリッドの名称は南西角の交点を基準とし、アルファベットと算用数字を用いて、南から北へＡ・Ｂ・Ｃ・・・・・Ｐ、西から東へ０・１・２・・・・・４と呼称した（第１図参照）。水準点は調査区の北側（標高29.8ｍ）、南側（標高29.6ｍ）の２か所に設定した。

表土はパワーショベルを用いて除去し、遺構の確認状況を写真撮影した後、人力で各遺構の掘り下げを行なった。検出された各遺構の調査は遺構の規模・内容に応じて半割または４分割した土層観察用ベルトを設定して慎重に掘り下げを行なった。土層の観察・記録は土色帖を用いた。出土遺物は原則として出土地点、高さを記入して個別に取り上げを行なった。

遺構全体図は1/200 縮尺で行なった。各遺構の平面図及び断面図、土層断面図は、規模・内容に応じて簡易遣り方、平板を使用し、1/20、1/40縮尺で実施した。特に竪穴住居跡で検出された竈・炉は、簡易遣り方を用い、1/10縮尺で記録した。各遺構の平面図は、遺物出土状況図、完掘図を作成した。

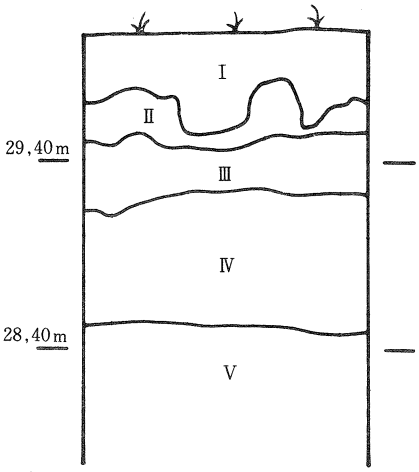
写真は、35㎜判白黒、カラーリバーサル、６×７判白黒を用いて、調査前現況から土層状況、遺物出土状況、完掘状況まで調査の進捗状況に合わせて適宜行った。調査区の全景はラジコンヘリコプターによる空撮を実施した。



第１図　グリッド設定図　　0　10m

Ⅱ　基本堆積土層

基本堆積土層は、調査区中央部のＩ１グリッド内にテストピットを設定して観察を行なった。Ⅰ層は表土層で層厚25～33㎝である。しまりのない暗褐色で耕作による攪乱が著しく、篠竹等の根が非常に多い。土器片が少量含まれている。Ⅱ層は褐色を呈したソフトローム層で層厚19～29㎝である。ところどころ表土からの小さい掘り込みが見られる。Ⅲ層は明褐色のソフトローム層で層厚22～36㎝である。小砂利が微量に含まれしまりがある。Ⅳ層は褐色のハードローム層で層厚56～72㎝である。Ⅲ層より色調はやや明るめである。小砂利を少量と白色パミスを微量含んでいる。Ⅴ層は明褐色のハードローム層で層厚50㎝以上である。色調はⅢ層に類似するが粘性・しまりがⅢ層のそれよりもはるかに強い。



第２図　基本堆積土層図１/40

Ⅲ　遺跡の位置と環境

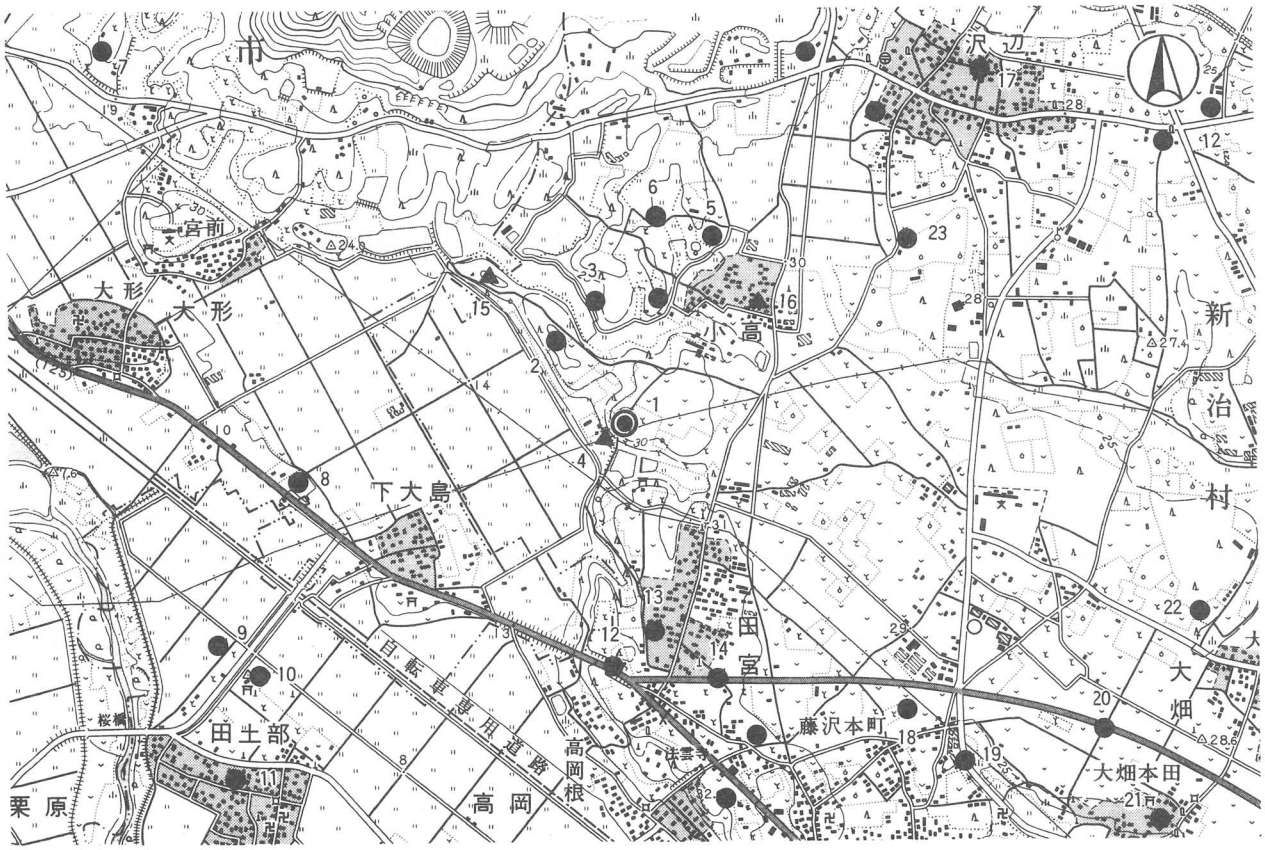
田宮梶の宮遺跡の所在する新治村は筑波山の南東約10㎞、霞ヶ浦の北西約８㎞に位置し、北に八郷町、南に土浦市、東に千代田町、西につくば市の各市町に隣接している。恋瀬川の支流天の川によって画された村域北部は筑波山塊が連なり、中央部は新治台地が東西に広がっている。南部は桜川が流れる広大な沖積低地になっている。桜川低地と台地との境は急崖となっており比高差約20ｍを測る。

本遺跡は新治村役場の西北西約１㎞、桜川の左岸に位置し、低地に接した標高約29ｍの台地の縁辺部に立地する。周辺の地形は小谷が複雑に入り組み、遺跡南側は現在梶の宮池となっている東に延びる谷津が形成され、西側から北側も小高村に向かって谷津が入り込んでいる。

新治村は変化に富んだ地形から各時代の数多くの遺跡が遺存する。縄文時代の遺跡は、縄文時代早期の小高天神遺跡、前期から中期の大畑新田遺跡、中期から後期の大畑本田貝塚等がみられる。

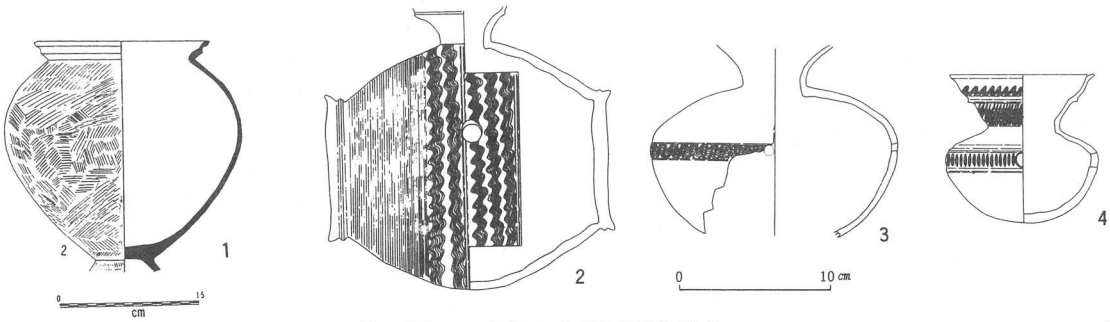
弥生時代の遺跡は桜川左岸では、藤沢地区や小高地区で弥生土器が表採されている。天の川の中流域方面には上稲吉西原遺跡を始めとする弥生時代後期後半期の大規模集落遺跡の原田遺跡群がある。新治村内では本郷原山遺跡で弥生時代後期後半期の竪穴住居跡７軒の調査が行われている。

古墳時代の遺跡では、集落遺跡の数は多いと思われるが調査例は少なく、包蔵地からの遺物の出土例が知られている。田宮梶の宮遺跡からは、古墳時代前期のＳ字甕（第４図－１）や５・６世紀の土師器甕・坏、古式須恵器が出土している。古式須恵器は県内では類例の少ない樽形瓶と大形瓶、滑石製模造品と共に第５図Ａ地点から出土している。田宮久保出土の小形瓶と共に陶邑産のTK208段階頃の須恵器である。



１田宮梶の宮遺跡　２高崎山古墳群　３小高寄居古墳群　４田宮窯跡　５小高天神向古墳　６小高天神遺跡　７小田古墳群　８下大島遺跡
９田土部稲荷古墳　10田土部明神古墳群　11田土部館跡　12高岡根遺跡　13田宮館跡　14田宮古墳群　15小高窯跡　16小高村内窯跡
17沢辺古墳群　18愛宕塚古墳　19藤沢山跡遺跡　20大畑本田遺跡　21大畑本田貝塚　22大畑新田遺跡　23沢辺南方古墳群

第３図　田宮梶の宮遺跡と周辺の遺跡　　国土地理院発行『常陸藤沢』1/25,000



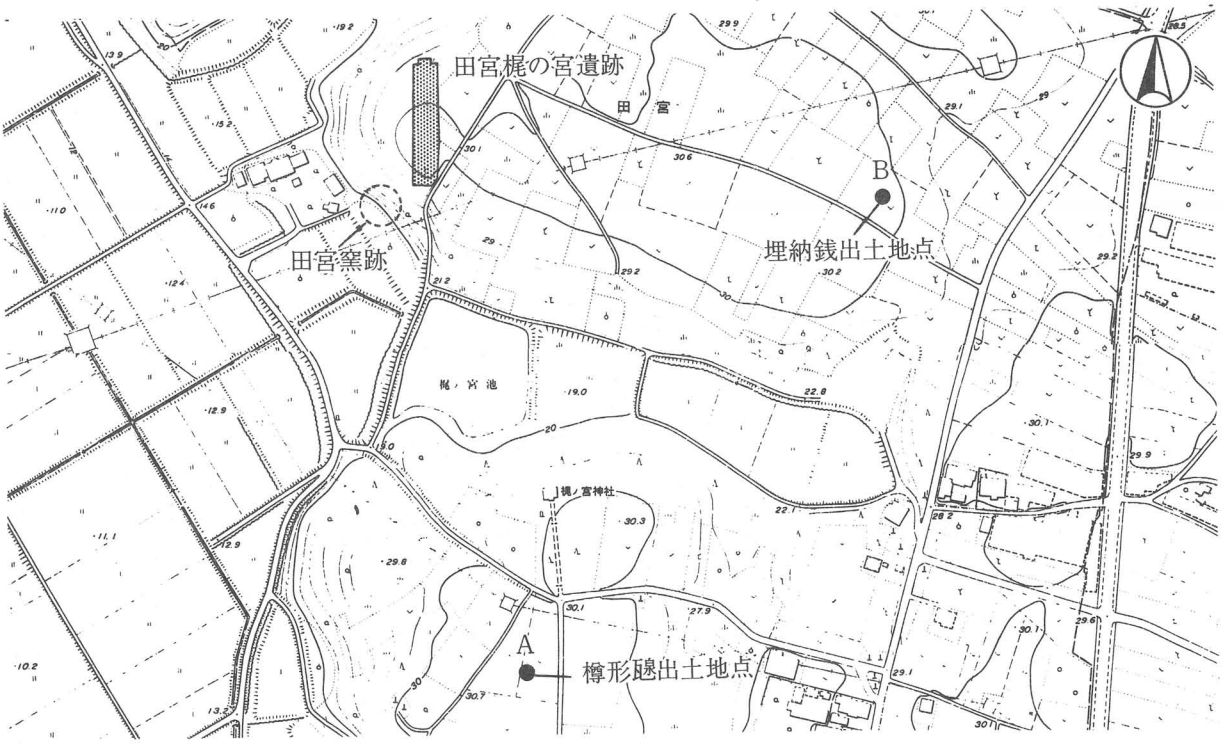
第４図　田宮梶の宮地区採集遺物

集落遺跡に対して方形周溝墓や古墳群の調査例はいくつかあり、みずらが出土して有名になった武者塚古墳、上坂田貝塚の方形周溝墓、田宮古墳群等の調査が行なわれている。上坂田貝塚からは一辺13ｍの規模の古墳時代前期の方形周溝墓が確認され、小形の器台と共に底部穿孔の壺形土器が出土している。

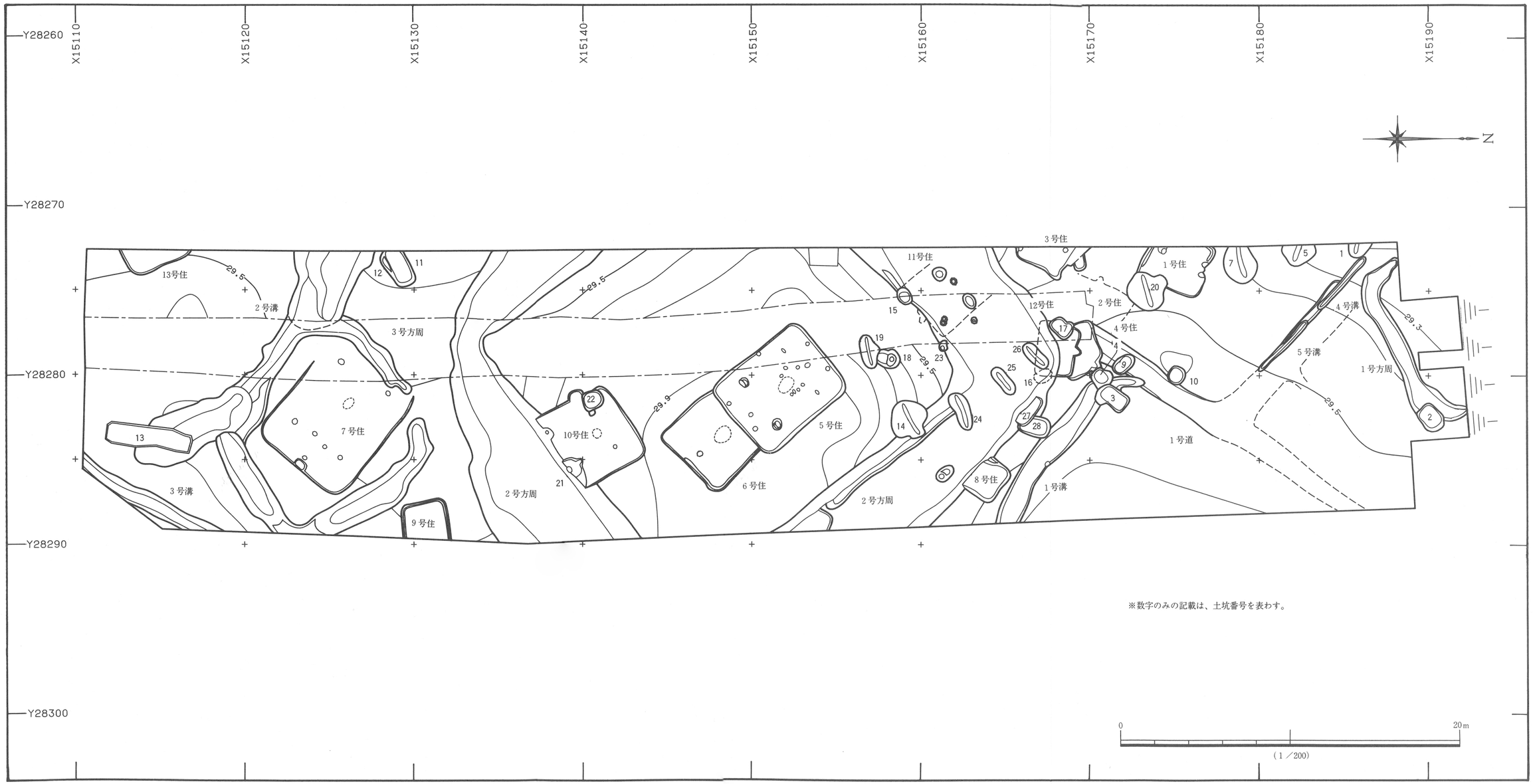
古墳群は桜川沿岸低地を基盤とする高崎山古墳群、小高古墳群、田宮古墳群、田土部古墳群、上坂田古墳群、下坂田古墳群、藤沢東町古墳群と天の川低地を基盤とする沢辺古墳群、原山古墳群、大志戸古墳群に大別され、大半が後期の古墳群である。高崎山古墳は、田宮梶の宮遺跡からは西側に延びる細長い台地上に立地する古墳群で、東支群と西支群からなり東支群は前方後円墳１基と彩色人物埴輪の出土した円墳等７基から成る。西支群は平成９年の調査で新しく確認された前方後円墳１基と円墳２基からなる古墳群で横穴式石室から６世紀第２四半世紀頃の須恵器とともに馬具・武具・玉類が出土している。田宮古墳群の調査では、後期～終末期の前方後円墳２基，円墳６基が確認されている。

奈良・平安時代の遺跡では新治窯跡群が知られている。天の川中流の土浦市栗山窯を最古としその後、永井寄居窯、東城寺窯、小野窯と展開する窯跡群で、東城寺周辺を中心とした地区とともに桜川右岸の田宮窯跡、小高窯跡、小高村内窯跡を合わせて新治窯群として認識される大窯跡群である。

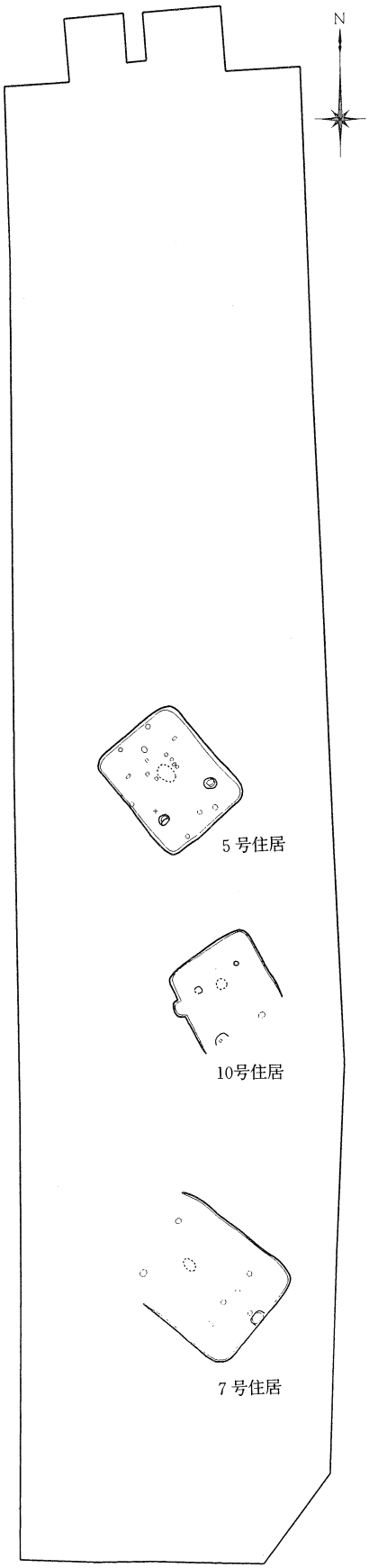
中世の遺跡では、東城寺の経塚群、藤沢城跡等がある。田宮梶の宮遺跡の東に隣接する榎木平（第５図Ｂ地点）からは竪穴遺構から中世前半期の大量の埋納銭が出土している。



第５図　田宮梶の宮遺跡の立地環境　　1/5,000



第６図　田宮梶の宮遺跡遺構全体図



第７図　弥生時代の遺構

Ⅳ　調査の成果

１　遺跡の概要

田宮梶の宮遺跡の調査区からは縄文時代と思われる陥し穴状遺構８基、弥生時代竪穴住居跡３軒、古墳時代前期の竪穴住居跡２軒，方形周溝墓３基、奈良・平安時代の竪穴住居跡７軒、中世の道路状遺構１条、溝状遺構３条、時期不明の土坑20基が検出された。

２　遺構の概要

縄文時代（第12図）

縄文時代と思われる陥し穴は調査区の北部に北西から南西方向に向かって配列しており、全部で９基が確認された。いづれも長軸を配列方向と直交させてほぼ直線的に列をなしている。

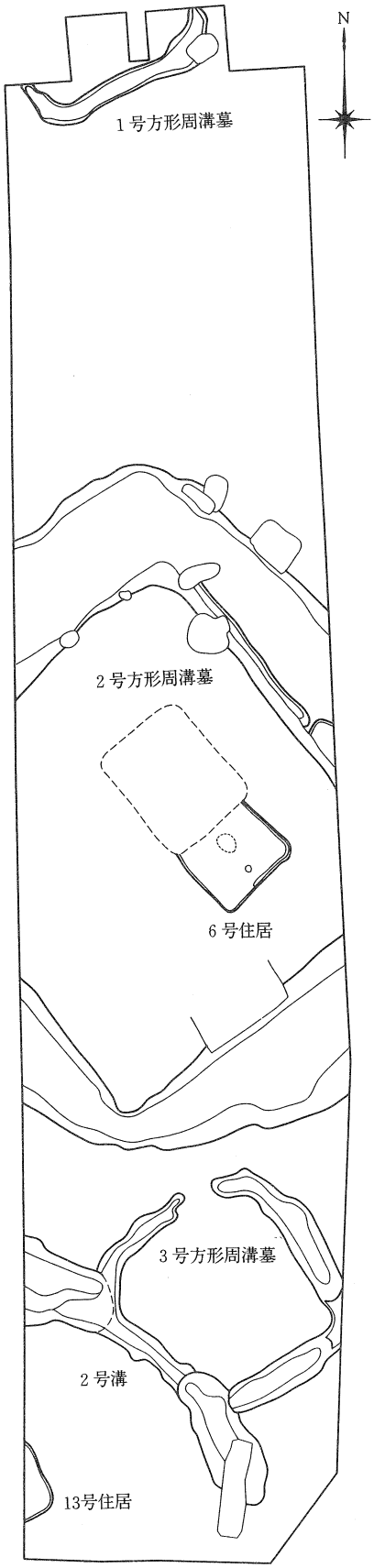
弥生時代（第７図）

弥生時代の竪穴住居跡３軒は調査区の中央部から南部にかけてまとまって確認された。竪穴住居跡の平面形は主軸方向に長い長方形で、４本の主柱穴のほかに短辺側の壁際に補助柱穴が２本づつあるもの（５号住居跡)、出入り口ピットとそれに伴う浅いピットを持つもの（７号住居跡）がある。炉の位置にも違いが見られ、５・７号住居跡は床面中央部僅かに奥壁寄り、10号住居跡はさらに奥壁寄りである。出土遺物は、壺を主体にして高坏、紡錘車が覆土中から出土している。５・10号住居跡の出土遺物は海老沢編年のⅡ期、７号住居跡はⅢ期で、弥生時代後期の前葉から中葉にかけての時期の集落跡である。

古墳時代（第８図）

古墳時代の竪穴住居跡は、弥生時代の竪穴住居跡と同じように調査区の中央部と南部の台地縁辺寄りの地点から確認された。２軒の竪穴住居跡のうち平面形の明らかな６号住居跡は主軸と直交方向に長い長方形で、主柱穴を持たず住居中央部やや奥に炉が確認されている。出土遺物は、小形器台、高坏、台坏甕片等である。

古墳時代の方形周溝墓は調査区の全体に広がっている。弥生時代後期前葉から古墳時代前期中頃まで集落遺跡であったものが、その後方形周溝墓群からなる墓域へと変化したようである。方形周溝墓は３基が確認されている。規模は１号方形周溝墓と３号方形周溝墓が一辺約10ｍ弱である。２号墓が約24×22ｍで溝幅約５～６ｍと県内では最大の規模となる。各周溝墓の深さは１号墓が30～56㎝、２号墓が50～140㎝、３号墓が30



第8図　古墳時代の遺構

～40cm、2号墓は南西部のコーナー部が最も浅くブリッジ状になっている。

2号墓は溝の内側地山を傾斜約70°に削り方台部を造っている。方台部傾斜面はていねいに整形されており斜面直下の周溝底面は直線的な細い溝状に掘り込まれている。それに対して溝の外側斜面は掘り込みの深さが場所によって一定せず荒い仕上がりになっている。出土遺物は覆土下～中層から弥生時代後期後半から古墳時代前期、中期、後期、そして覆土上層の腐植土層からは奈良時代の遺物が出土している。古墳時代前期中頃の6号住居跡と重なっており、おそらく古墳時代前期後半の遺構と考えられる。

奈良時代（第9図）

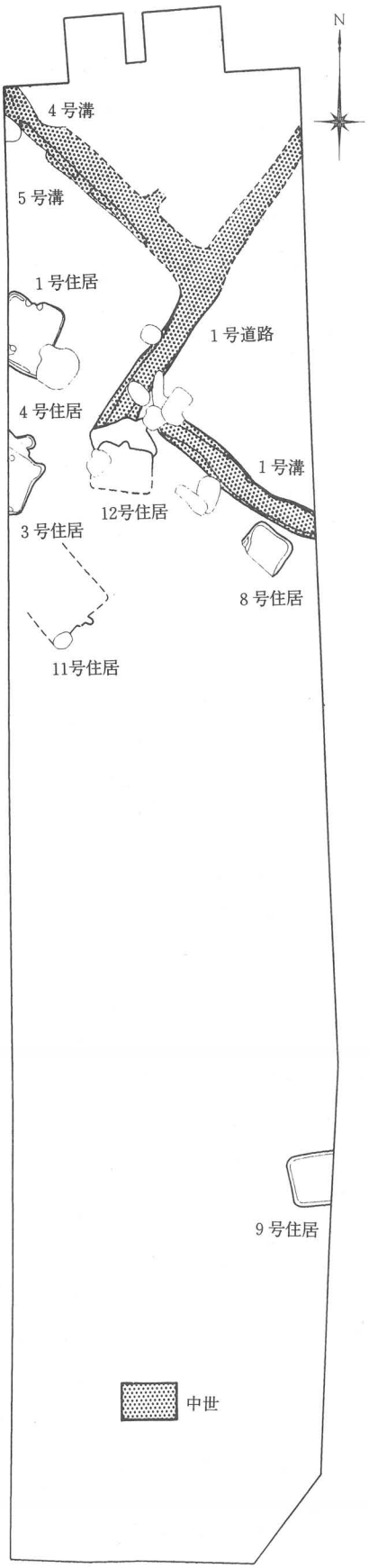
奈良時代の8世紀中頃になると再び、調査区内に竪穴住居跡からなる集落が営まれ始める。この時期に再び集落が出現するのは調査地区の南西に隣接する田宮の須恵器窯跡との関係が想定される。調査地区内では竪穴住居跡は1軒（1号住居跡）だけが確認されている。2号方形周溝墓の覆土中にも奈良時代の須恵器が廃棄されており、調査区外にもこの時期の集落が広がっていたものと思われる。出土遺物は須恵器の坏・甕、土師器の甕等で、1号住居跡のカマドには構築材として両袖部に土師器甕が逆位状態で埋め込まれている。

平安時代（第9図）

平安時代の9世紀後半以降になると再び調査区全体に小形の住居が営まれ10世紀後半まで続いている。この時期の竪穴住居跡は全体に小形で主柱穴をもたず、平面形は方形基調で東側コーナー部にカマドを持つもの（3号住居跡）と長方形で東側壁面にカマドを持つと推測されるもの（9号住居跡）、長方形で北西壁面にカマドを持つもの（2・12号住居跡）があり、おそらくコーナーカマドのものから東カマドのものへ、さらに北西壁側にカマドを持つものへと変化していると考えられる。出土遺物は土師器の高台付椀、小皿、甕等が出土している。

中世（第9図）

中世前半期になると調査地区の北部に道・溝状遺構が見られる。北部の1号道は北東から南西へ直線的に延びて、途中で北西方向に直交して分岐している。底面が平坦で硬化面を持つ道状遺構であり、南西部では溝形になり北東部では削平されて平坦な硬化面として続いている。出土遺物は方形周溝墓と重なる部分から土師質土器の小皿が出土している。調査区の南端部の



第9図　奈良時代以降の遺構

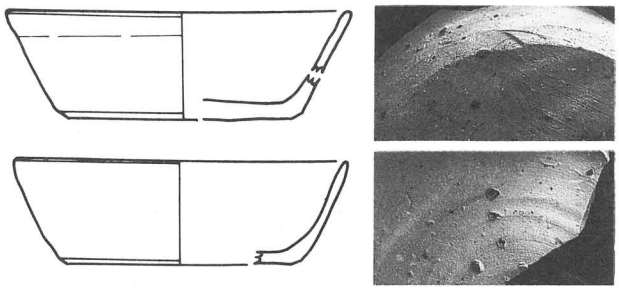
3号溝からも常滑の鉢が出土している。常滑片口鉢は中世前半期の遺物である。3号溝は現有道路添いに掘り込まれており、近代の溝の可能性がある。

3　出土遺物（第20～24図）

田宮梶の宮遺跡から出土した遺物は縄文時代早期から中世前半の時期までの土器や陶磁器、土製品や鉄製品等である。縄文時代早期の土器は、沈線文系土器（田戸下層）と条痕文系土器で極少量が弥生時代の竪穴住居跡の覆土中に混入して出土している。縄文時代早期に伴うものかどうかはっきりしないが頁岩製の局部磨製石斧が方形周溝墓覆土中から出土している。弥生時代の遺物は、竪穴住居跡に伴う後期前葉～中葉の時期の土器で弥生時代後期の海老沢編年のⅡ期からⅢ期にかけての時期のものである。5号住居跡からは一段の複合口縁で格子目文の施された壺（8）がP10近くの床面から出土している。この壺は頸部の文様帯の無文部に赤彩が施されている。20の紡錘車はP4際の床面から出土しており同じように紡錘車にも僅かに赤彩痕跡が見られる。この時期の在地の赤彩土器は珍しく他地域からの影響と考えられる。7号住居跡出土の注ぎ口を持った壺（22）は、頸部上半に棒状の工具による刺突が、下半には結節文が施されている。同じく小形の壺（26）には多条櫛歯による連続山形文が施されており、この時期の栃木県方面からの影響とされるものである。5・10号住居跡の遺物は海老沢編年後Ⅱ期、7号住居跡の遺物は後Ⅲ期のものである。その他に方形周溝墓覆土中から、弥生時代後期後半の上稲吉式土器片も出土している。また在地の製品以外に2号方形周溝墓覆土中からパレス壺の口縁部（37）と思われる、刻み目を入れた棒状付文の土器小片が出土している。

古墳時代前期の遺物は、前期中葉～後葉にかけての土師器と鉄製品で、竪穴住居跡から出土しているものと方形周溝墓覆土中から出土しているものがある。竪穴住居跡の出土遺物は6号住居跡の炉の北側床面から出土した小形器台（38）と13号住居跡床面から出土した高坏（39）であるが、どちらも前期中頃のものと思われる。方形周溝墓の遺物は、2号方形周溝墓の覆土中から頸部に突帯を巡らした土師器の壺（48）や口頸部を内彎させる中形壺（49）、土器以外では鉄鏃が2号方形周溝墓の覆土中から出土している。鉄鏃（53）は刃部の上半部の破損した長鋒柳葉式鉄鏃で残存長8.0㎝、刃部幅2.1㎝前後、重量14.0ｇである。いづれも竪穴住居跡の遺物の時期に近い前期中頃のも

のと思われる。前期後半の遺物ではほぼ完形で出土した小形坩（51）やＳ字甕口縁部片（50）がある。Ｓ字甕は口縁端部の形状から赤塚分類のＣ類の新段階頃のものと思われ、西宮一男氏によって紹介された田宮梶の宮出土Ｓ字甕よりはやや新しい時期のものと思われる。その他に混入と思われる弥生時代後期後半の壺体部片（41）、古墳時代中期～後期（54）の土師器片と少量の須恵器、６世紀後半の円筒埴輪小片が見られる。



第10図　田宮窯跡産の可能性のある須恵器

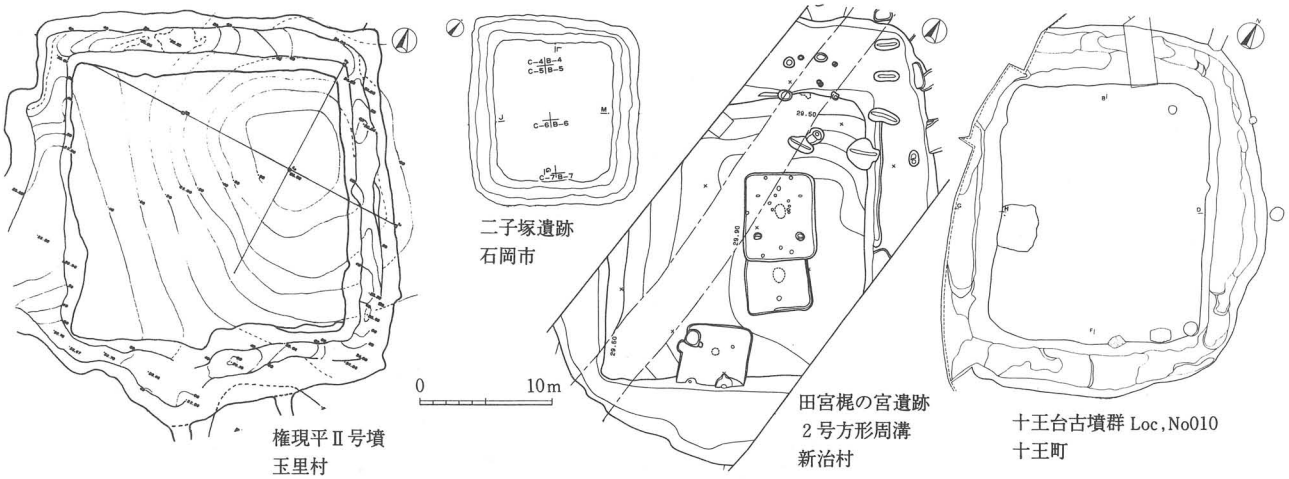
３号方形周溝墓の覆土中からは被熱痕のある棒状の土製品（40）が出土している。長辺の一面に被熱痕跡が細長く残り、竪穴住居跡の炉に埋め込まれて炉石のように使われる土製品かもしれない。。

奈良・平安時代の遺物は、各住居跡出土の土師器・須恵器で８世紀後半から10世紀前半の時期のものである。１号住居跡出土の須恵器坏は雲母微粒を多量に含んだ新治産須恵器で新治赤井編年の東城寺段階（８世紀第３四半世紀頃）に位置づけられる。２号方形周溝墓覆土出土の須恵器坏も新治産で、東城寺寄居前Ａ段階に位置づけられる。第10図の須恵器は２号方形周溝墓覆土中から出土している。これらは使用痕跡がみられず焼き歪みや融解した鉄分粒の吹き出しの生々しい、窯出直後の処分品のような須恵器である。胎土は鉄分粒が目立ち、雲母を少量含んでいる。坏は底部を四方向にヘラ削り、さらに底部周縁を５～８㎜幅でヘラ削りしている。東城寺寄居前Ａ段階（８世紀中葉）の中の古いものに類似している。

中世の遺物では常滑鉢(74)が、中野編年７期（14世紀前半）の片口鉢と思われる。かわらけ(75)は、底部に指頭痕のある手捏で、コースター状の形態である。

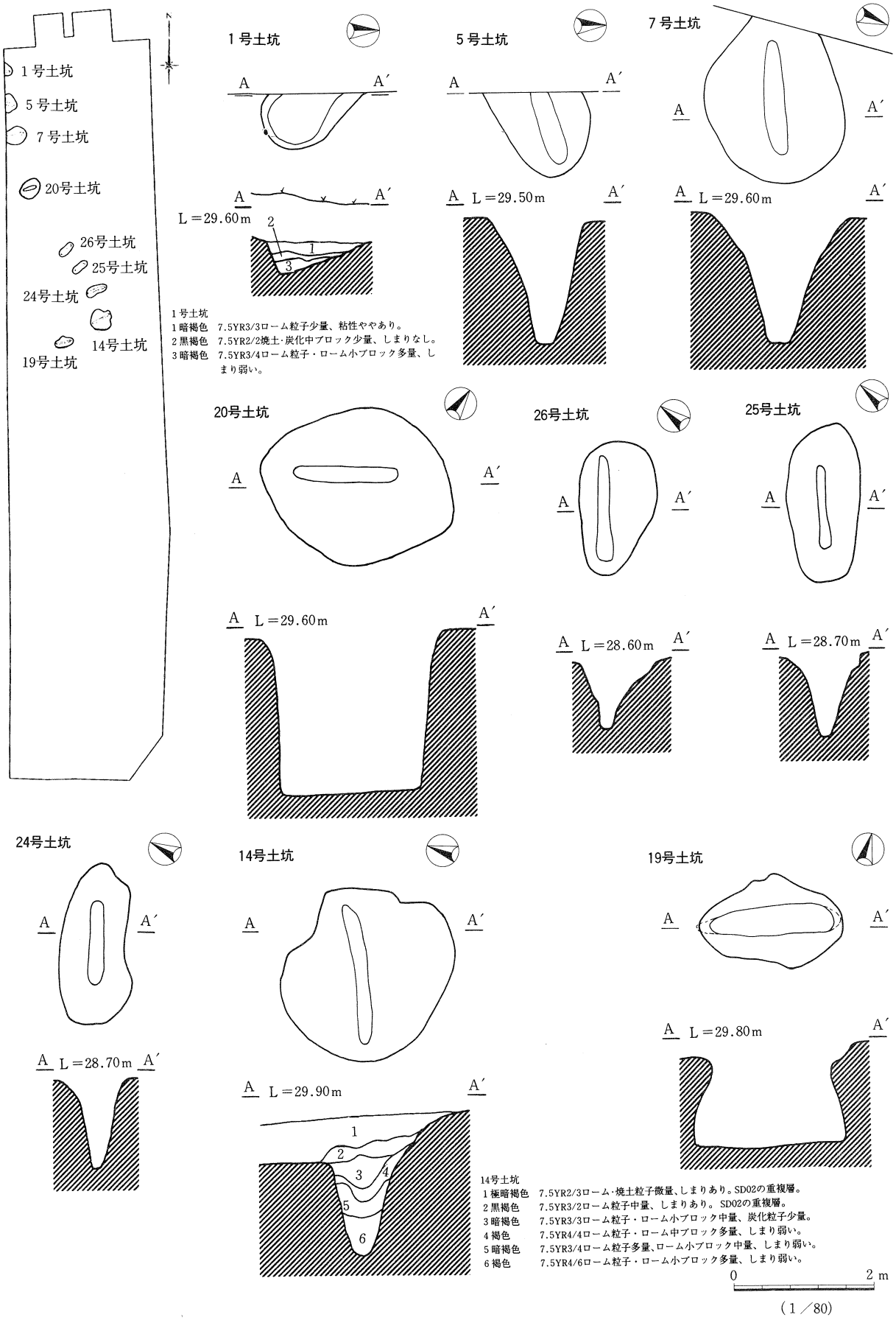
４　まとめ

本跡は弥生時代から古墳時代前期にかけての集落遺跡であり、古墳時代前期の後半には方形周溝墓からなる墓域になっていったようである。さらに奈良時代には付近で須恵器の生産が行われ、再び平安時代にかけて集落が営まれていたことも確認された。古墳時代前期の方形周溝墓群の中で一辺20ｍを越える規模の大きなものが見つかったことも特筆されるべきことである。

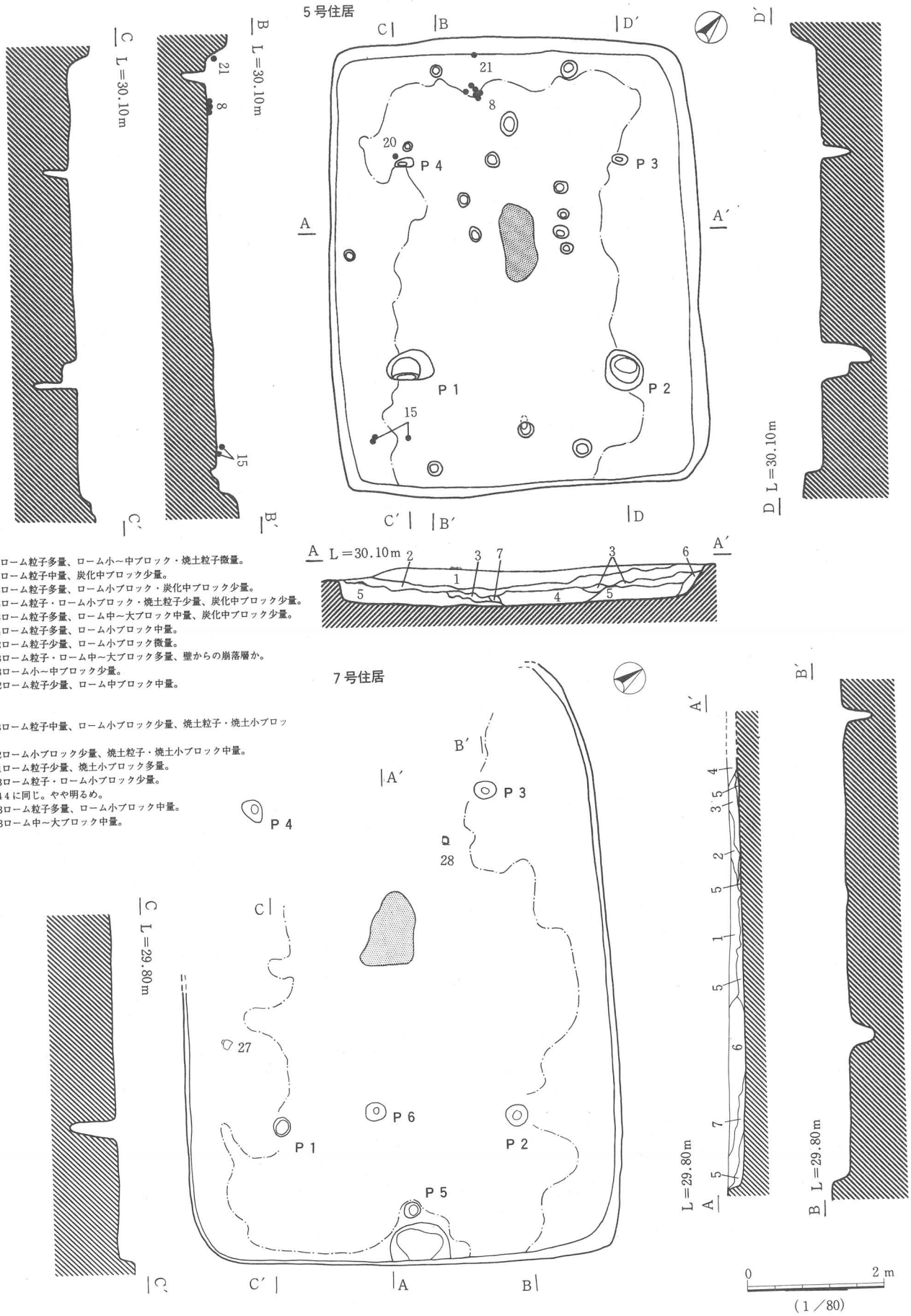


第11図　茨城県内の大形方形周溝墓（方形墳）

参考文献
1968年　西宮一男「新治郡新治村梶の宮の土師器」『茨城県の土師器集成』第２集　茨城考古学会
1982年　黒沢彰哉「新治村田宮梶の宮遺跡出土の須恵器」『婆良岐考古』第４号
1986年　『重要遺跡調査報告書Ⅲ』昭和61年３月　茨城県教育委員会
1986年　『武者塚古墳』新治村教育委員会
1996年　内山俊身「茨城県新治村田宮出土の中世一括埋納銭」『備蓄銭とその出土状態』第３回出土銭貨研究会発表要旨
2000年　海老沢稔「茨城県における弥生後期の土器編年」『婆良岐考古』第22号


1号土坑
5号土坑
7号土坑
20号土坑
26号土坑
25号土坑
24号土坑
14号土坑
19号土坑
A
A′
L＝29.60m
L＝29.50m
L＝29.60m
L＝29.60m
L＝28.60m
L＝28.70m
L＝28.70m
L＝29.90m
L＝29.80m
1号土坑
1暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量、粘性ややあり。
2黒褐色　7.5YR2/2焼土・炭化中ブロック少量、しまりなし。
3暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子・ローム小ブロック多量、しまり弱い。
14号土坑
1極暗褐色　7.5YR2/3ローム・焼土粒子微量、しまりあり。SD02の重複層。
2黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子中量、しまりあり。SD02の重複層。
3暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子少量。
4褐色　7.5YR4/4ローム粒子・ローム中ブロック多量、しまり弱い。
5暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、しまり弱い。
6褐色　7.5YR4/6ローム粒子・ローム小ブロック多量、しまり弱い。
0
2 m
(1／80)

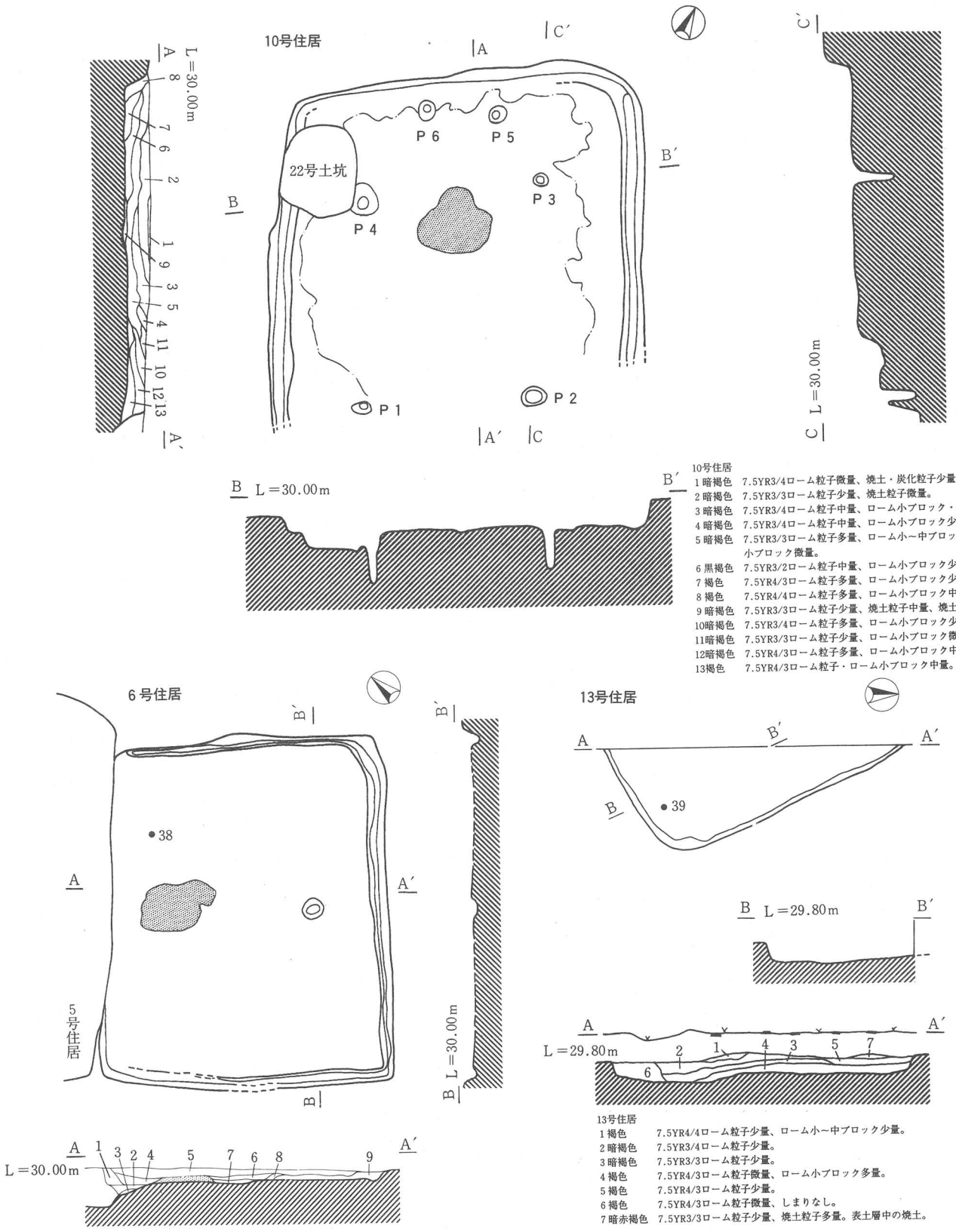
第12図　陥し穴



5号住居
1 黒褐色　7.5YR3/1ローム粒子多量、ローム小～中ブロック・焼土粒子微量。
2 黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子中量、炭化中ブロック少量。
3 極暗褐色　7.5YR2/3ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化中ブロック少量。
4 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量、炭化中ブロック少量。
5 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子多量、ローム中～大ブロック中量、炭化中ブロック少量。
6 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子多量、ローム小ブロック中量。
7 黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子少量、ローム小ブロック微量。
8 褐色　7.5YR4/3ローム粒子・ローム中～大ブロック多量、壁からの崩落層か。
9 黒褐色　7.5YR2/3ローム小～中ブロック少量。
10黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子少量、ローム中ブロック中量。

7号住居
1 極暗褐色　7.5YR2/3ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・焼土小ブロック微量。
2 黒褐色　7.5YR3/2ローム小ブロック少量、焼土粒子・焼土小ブロック中量。
3 黒色　7.5YR2/1ローム粒子少量、焼土小ブロック多量。
4 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子・ローム小ブロック少量。
5 暗褐色　7.5YR3/4 4に同じ。やや明るめ。
6 褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、ローム小ブロック中量。
7 暗褐色　7.5YR3/3ローム中～大ブロック中量。

第13図　弥生時代の竪穴住居跡



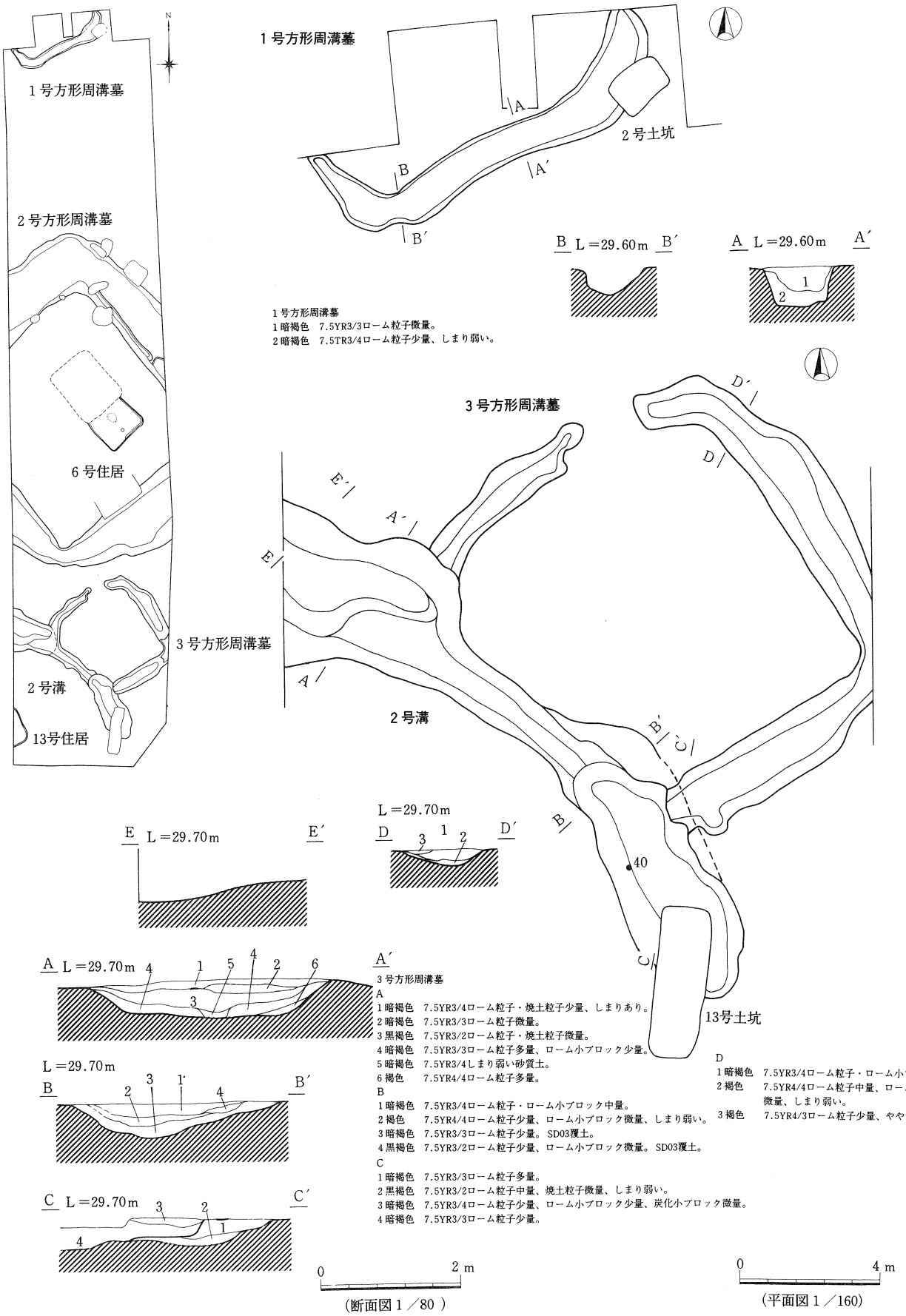
10号住居
1 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子微量、焼土・炭化粒子少量。
2 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量、焼土粒子微量。
3 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子微量。
4 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子少量。
5 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子多量、ローム小～中ブロック中量、焼土粒子・炭化小ブロック微量。
6 黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量。
7 褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、ローム小ブロック少量。
8 褐色　7.5YR4/4ローム粒子多量、ローム小ブロック中量。
9 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量、焼土粒子中量、焼土小ブロック少量。
10暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子多量、ローム小ブロック少量。
11暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量、ローム小ブロック微量。
12暗褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、ローム小ブロック中量。
13褐色　7.5YR4/3ローム粒子・ローム小ブロック中量。

13号住居
1 褐色　7.5YR4/4ローム粒子少量、ローム小～中ブロック少量。
2 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子少量。
3 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量。
4 褐色　7.5YR4/3ローム粒子微量、ローム小ブロック多量。
5 褐色　7.5YR4/3ローム粒子少量。
6 褐色　7.5YR4/3ローム粒子微量、しまりなし。
7 暗赤褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量、焼土粒子多量。表土層中の焼土。

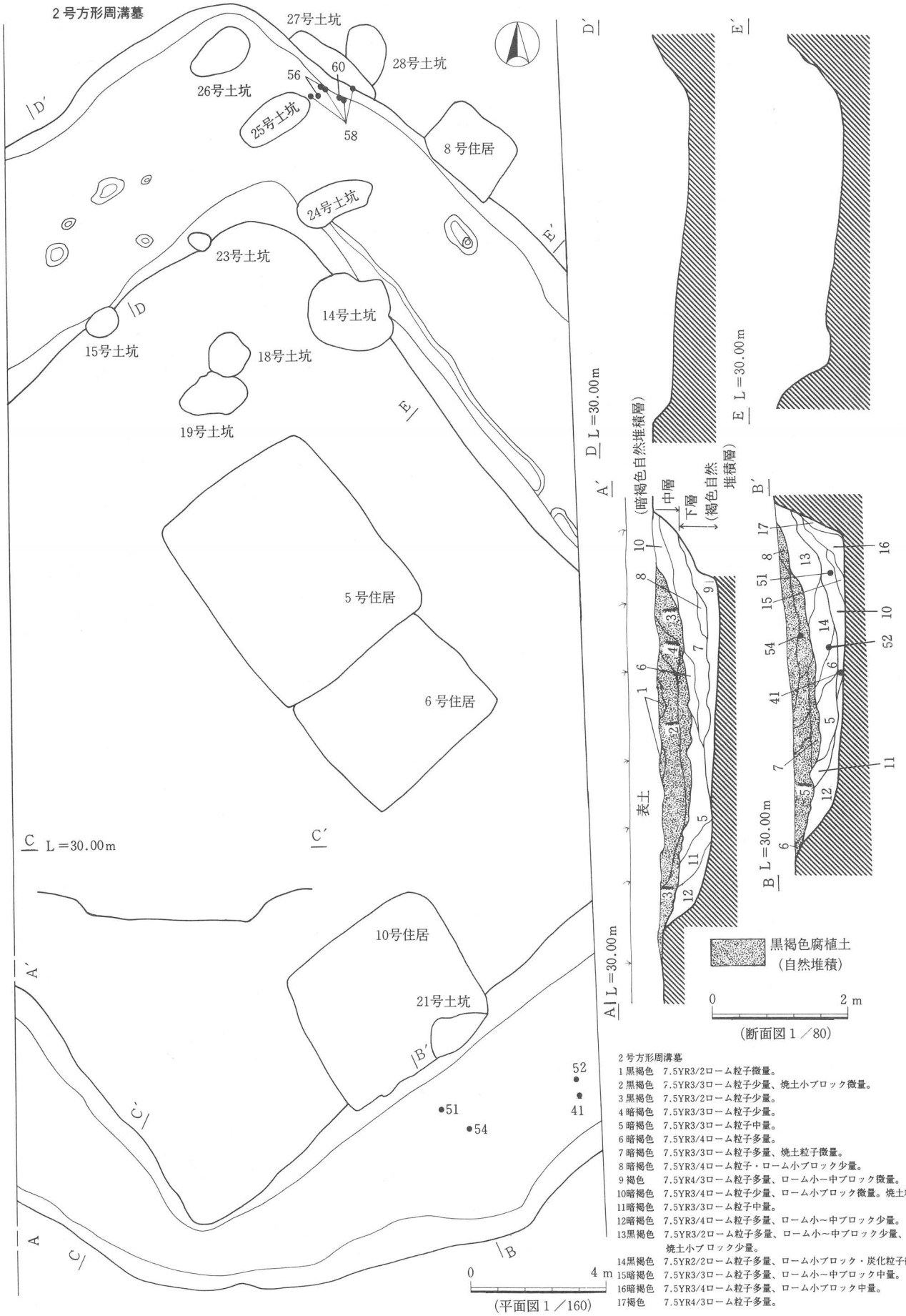
6号住居
1 極暗褐色　7.5YR2/3ローム粒子少量、ローム小～中ブロック少量。
2 黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子中量、ローム小～中ブロック中量。
3 黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子少量、焼土中ブロック微量。
4 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量。
5 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子少量、焼土粒子微量。
6 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子中量、焼土粒子微量。
7 黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子多量、しまりあり。床か。
8 褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、ローム中ブロック中量。
9 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子中量、ローム中ブロック微量、焼土粒子微量。

0　2 m
(1／80)

第14図　弥生時代・古墳時代の竪穴住居跡

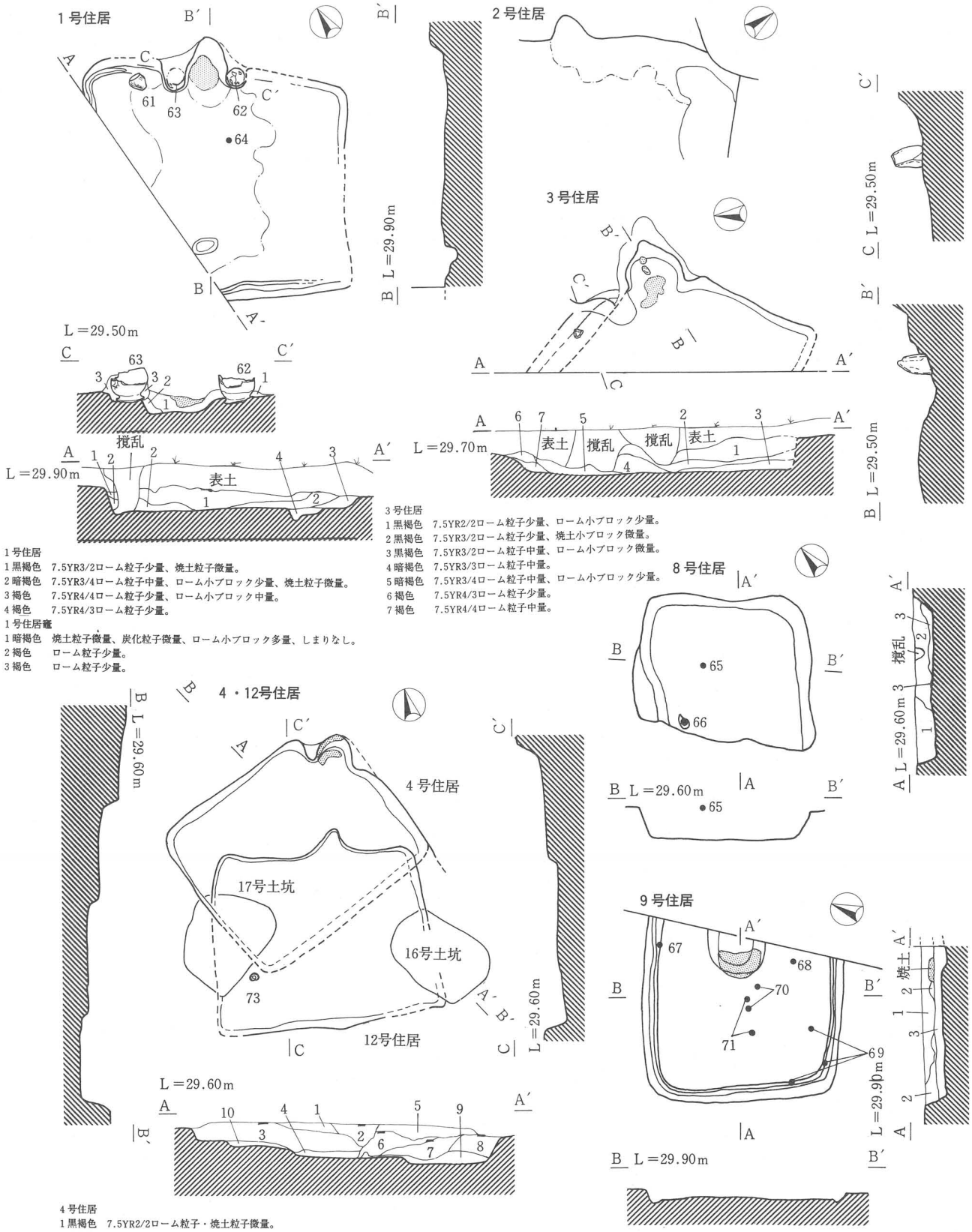


第15図　1・3号方形周溝墓、2号溝



2号方形周溝墓
1 黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子微量。
2 黒褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量、焼土小ブロック微量。
3 黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子少量。
4 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子少量。
5 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子中量。
6 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子多量。
7 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子多量、焼土粒子微量。
8 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子・ローム小ブロック少量。
9 褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、ローム小～中ブロック微量。
10暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子少量、ローム小ブロック微量。焼土粒子中量。
11暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子中量。
12暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子多量、ローム小～中ブロック少量。
13黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子多量、ローム小～中ブロック少量、焼土粒子・焼土小ブロック少量。
14黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化粒子微量。
15暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子多量、ローム小～中ブロック中量。
16暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子多量、ローム小ブロック中量。
17褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量。

第16図　2号方形周溝墓



1号住居
1黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子少量、焼土粒子微量。
2暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量。
3褐色　7.5YR4/4ローム粒子少量、ローム小ブロック中量。
4褐色　7.5YR4/3ローム粒子少量。

1号住居竈
1暗褐色　焼土粒子微量、炭化粒子微量、ローム小ブロック多量、しまりなし。
2褐色　ローム粒子少量。
3褐色　ローム粒子少量。

3号住居
1黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子少量、ローム小ブロック少量。
2黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子少量、焼土小ブロック微量。
3黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子中量、ローム小ブロック微量。
4暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子中量。
5暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子中量、ローム小ブロック少量。
6褐色　7.5YR4/3ローム粒子少量。
7褐色　7.5YR4/4ローム粒子中量。

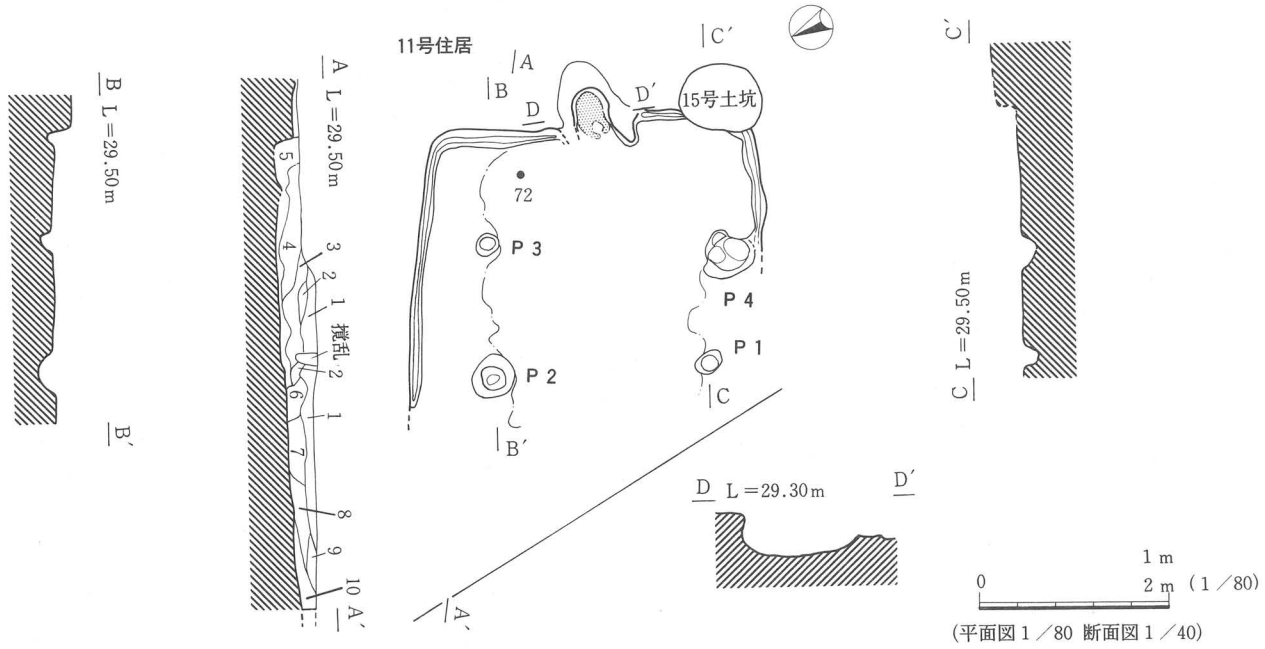
4号住居
1黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子・焼土粒子微量。
2暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量。
3暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子・炭化粒子微量、焼土粒子少量。
4褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、焼土粒子・焼土大ブロック微量。
5黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子少量、焼土粒子中量。
6黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロッ微量。
7暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子多量。
8黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子微量。
9褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、しまり弱い。
10褐色　7.5yr4/3ローム粒子多量、ローム小～中ブロック中量。

8号住居
1黒褐色　7.5YR3/2ローロ粒子中量、しまりあり。暗褐色土が斑に混入。
2暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子中量、しまりあり。暗褐色土が斑に混入。
3暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子・ローム小ブロック中～多量、しまりあり。

9号住居
1暗褐色　7.5YR3/3ローム小～中ブロック多量、炭化小ブロック微量。
2褐色　7.5YR4/3ローム粒子多量、ローム小ブロック少量。
3褐色　7.5YR4/4ローム粒子・ローム中～大ブロック中量。

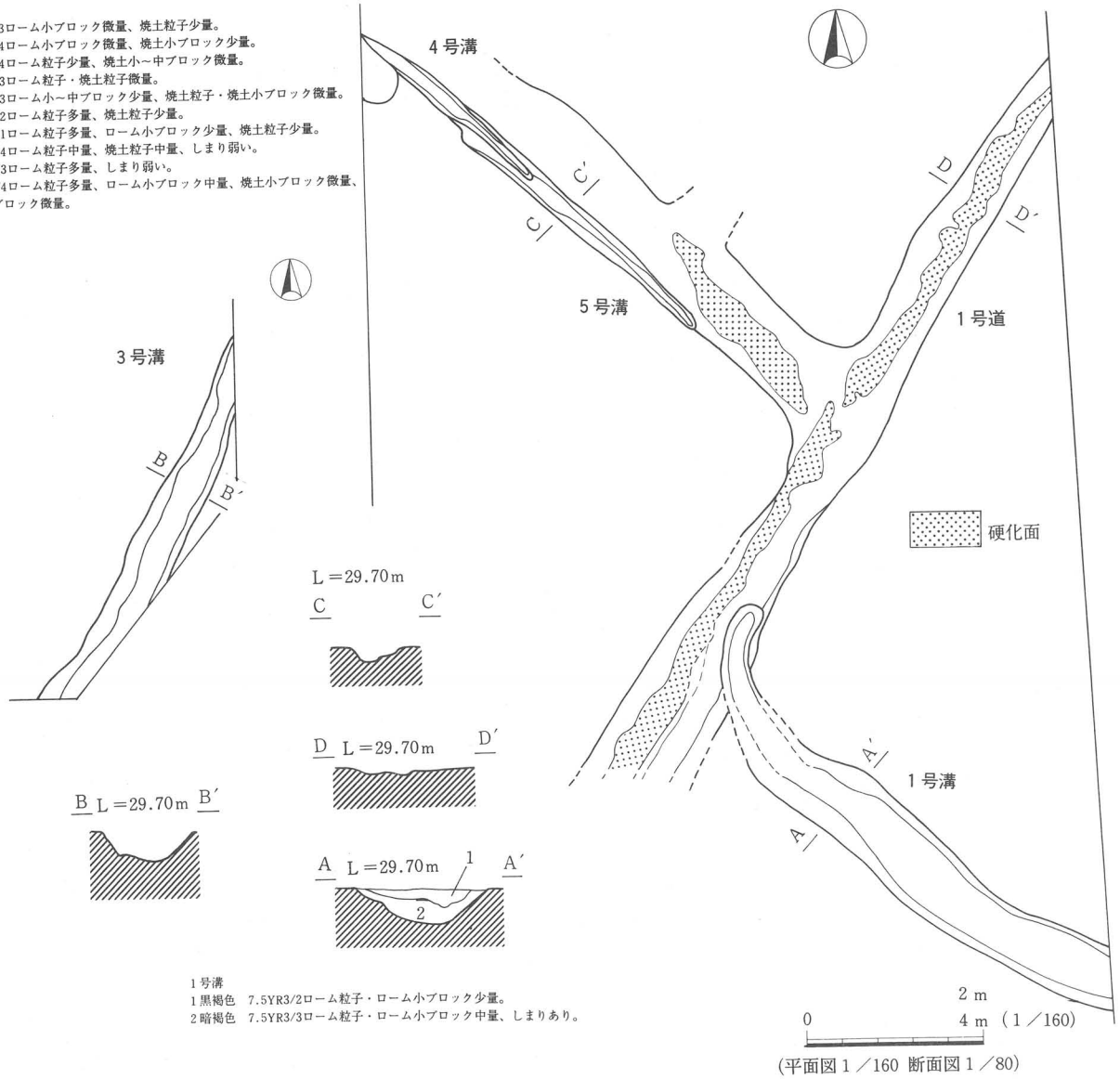
0　2 m
(1／80)

第17図　奈良・平安時代の竪穴住居跡



(平面図1／80 断面図1／40)

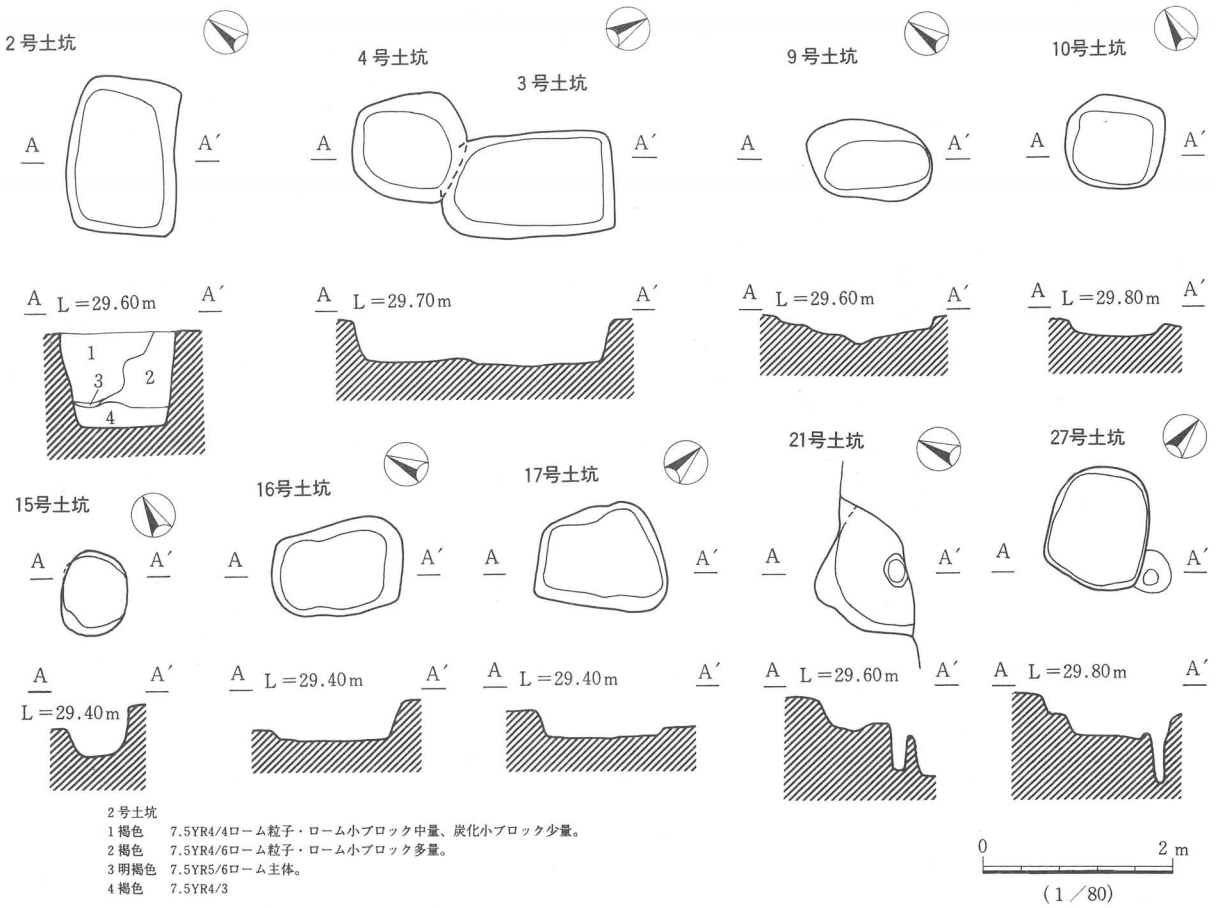
11号住居
1 暗褐色　7.5YR3/3ローム小ブロック微量、焼土粒子少量。
2 暗褐色　7.5YR3/4ローム小ブロック微量、焼土小ブロック少量。
3 暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子少量、焼土小～中ブロック微量。
4 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子・焼土粒子微量。
5 褐色　7.5YR4/3ローム小～中ブロック少量、焼土粒子・焼土小ブロック微量。
6 黒褐色　7.5YR2/2ローム粒子多量、焼土粒子少量。
7 黒色　7.5YR2/1ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、焼土粒子少量。
8 褐色　7.5YR4/4ローム粒子中量、焼土粒子中量、しまり弱い。
9 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子多量、しまり弱い。
10暗褐色　7.5YR3/4ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土小ブロック微量、炭化小ブロック微量。



1号溝
1 黒褐色　7.5YR3/2ローム粒子・ローム小ブロック少量。
2 暗褐色　7.5YR3/3ローム粒子・ローム小ブロック中量、しまりあり。

(平面図1／160 断面図1／80)

第18図　奈良・平安時代の竪穴住居跡、中世の道・溝



2号土坑
1 褐色　7.5YR4/4ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化小ブロック少量。
2 褐色　7.5YR4/6ローム粒子・ローム小ブロック多量。
3 明褐色　7.5YR5/6ローム主体。
4 褐色　7.5YR4/3

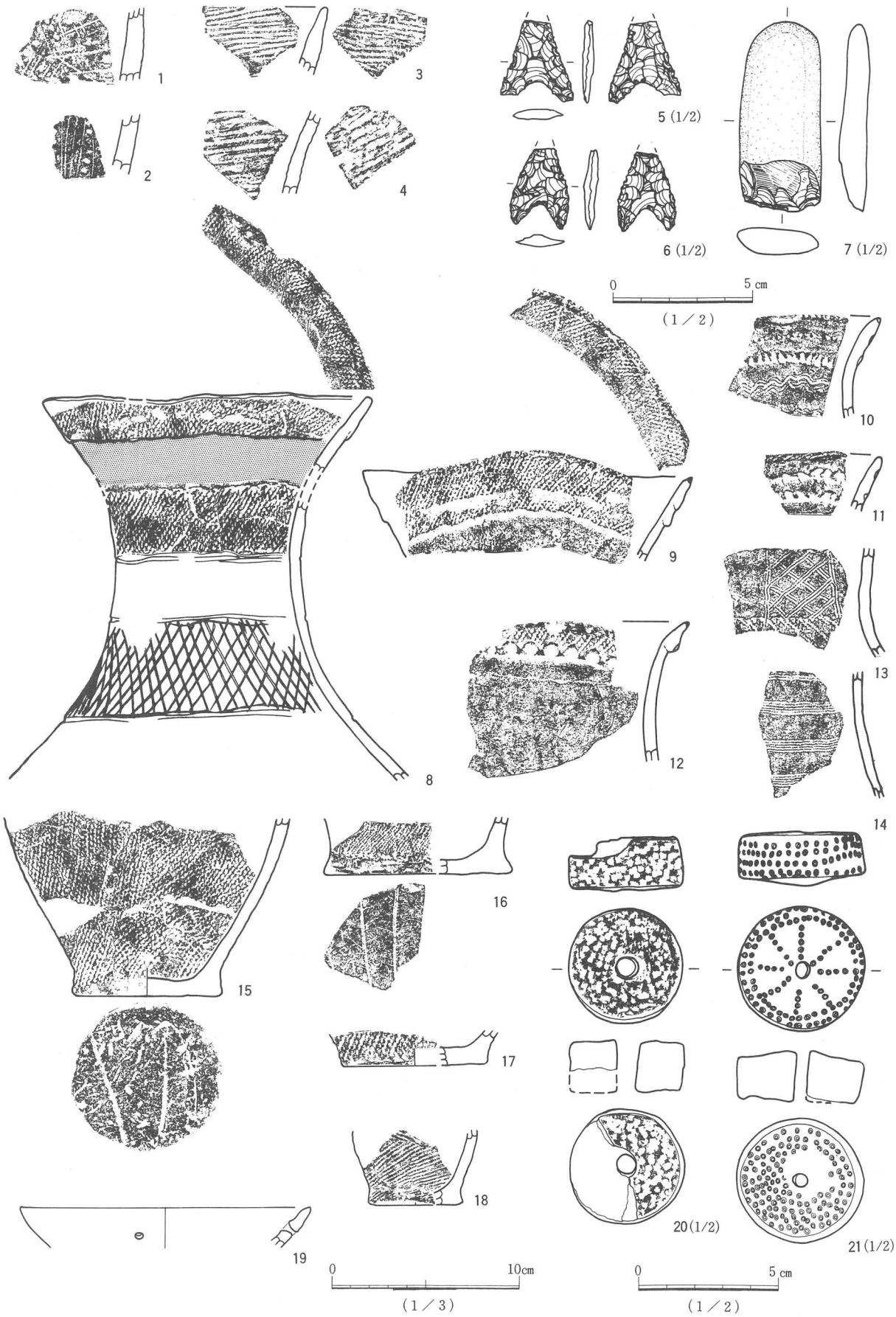
第19図　土　坑

表1　田宮梶の宮遺跡住居跡一覧表

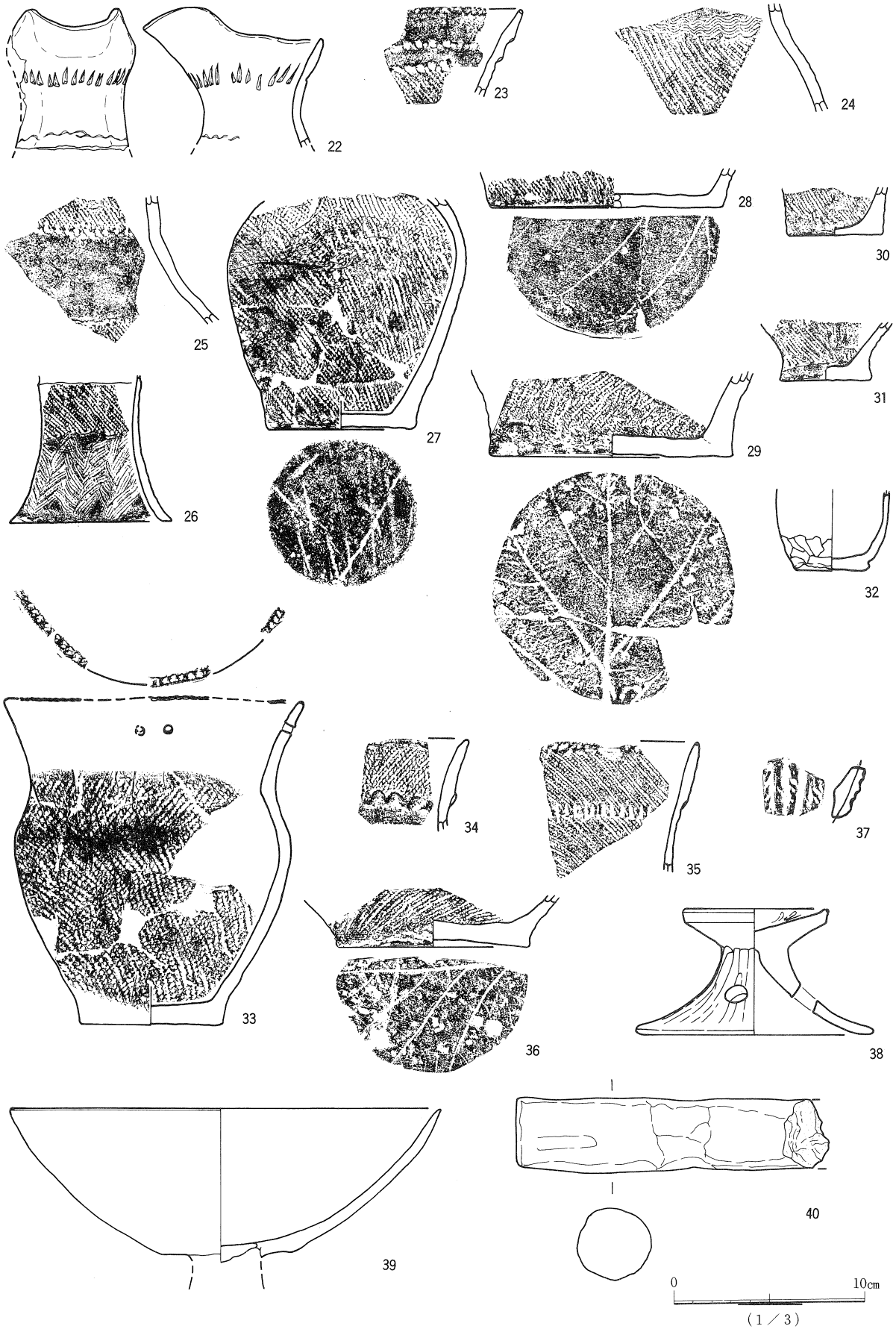
遺構名	位置（グリッド）	重複遺構	形　態	規模(長軸×短軸×壁高)m	主軸方向	主柱穴	覆土	備　考
ＳＩ０１	M1／N1	SK02	方形？	3.72×3.22×0.18	N-34°-E	なし	自然	竈袖部に土師器甕使用
ＳＩ０２	M1・2	なし	不明	‥×‥×0.05	N-59°-E	なし	自然	
ＳＩ０３	L1	なし	不明	‥×‥×0.46	N-25°-E	なし	自然	
ＳＩ０４	L2／M2	SI12	方形？	3.05×2.54×0.30	N-22°-E	なし	自然	SI12より新しい
ＳＩ０５	H1・2／I1・2	SI06	長方形	6.25×5.40×0.30	N-40°-W	4	自然	SI06より古い
ＳＩ０６	H3・4／I3	SI05	不明	4.91×‥×0.11	N-44°-W	なし	自然	SI05より新しい
ＳＩ０７	C2～4／D2～4	なし	長方形	‥×6.35×0.28	N-39°-W	4	自然	
ＳＩ０８	K3・4	なし	方形	2.51×2.34×0.42	N-71°-W	なし	自然	
ＳＩ０９	C4／E4	なし	長方形	‥×2.82×0.19	N-80°-E	なし	自然	
ＳＩ１０	F3・4／G3・4	方周02 SK21・22	長方形	‥×5.17×0.35	N-29°-W	4	自然	方周02より古い
ＳＩ１１	J1・2／K1・2	方周02 SK15	方形？	3.60×‥×0.34	N-66°-W	4	自然	方周02より新しい
ＳＩ１２	L2／M2	SI04	長方形	‥×2.40×0.44	N-14°-E	なし	自然	SI04より新しい
ＳＩ１３	B1／C1	なし	不明	‥×‥×0.20	N-30°-W	なし	自然	

表２　田宮梶の宮遺跡土坑一覧表

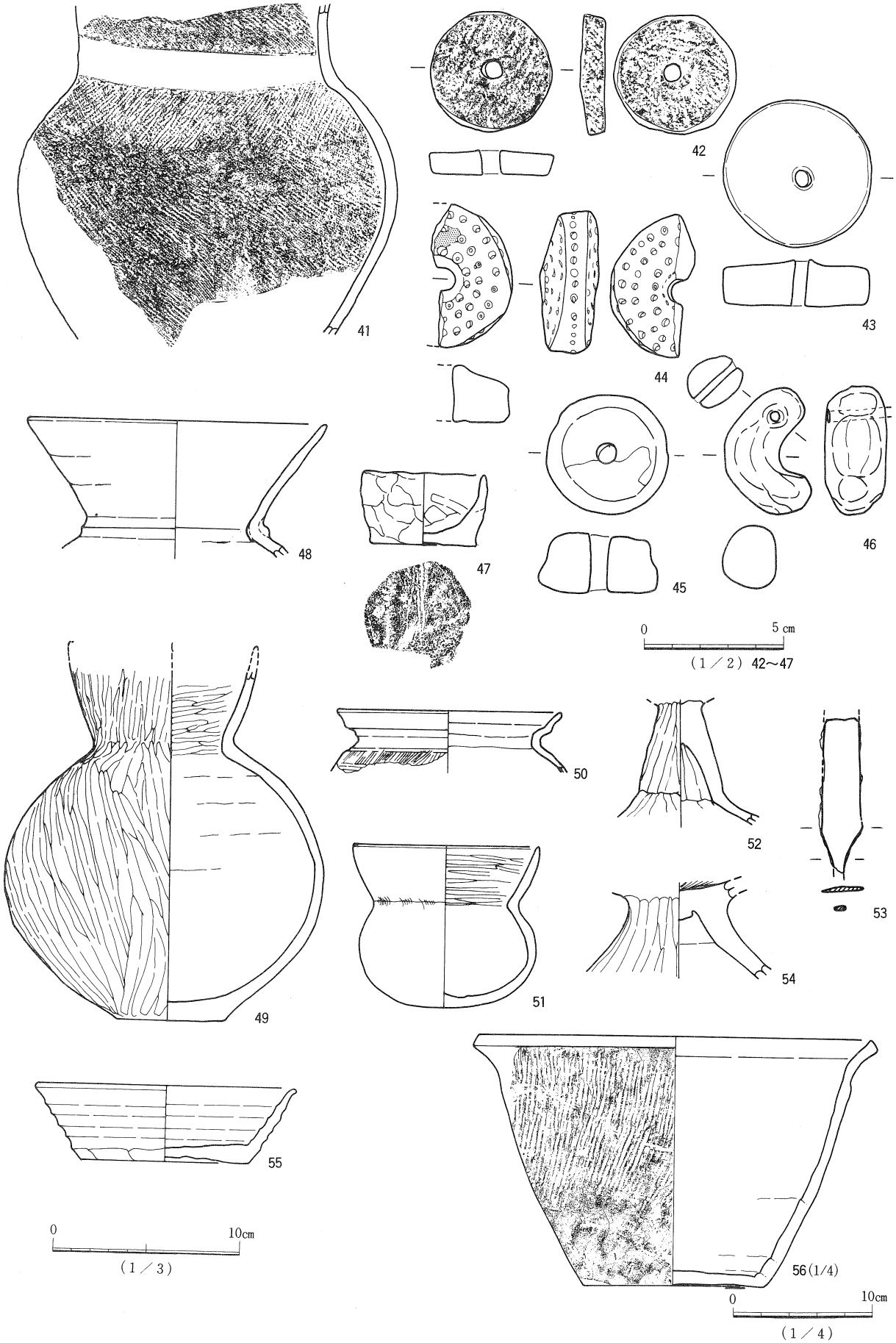
遺構名	位置（グリッド）	重複遺構	形　態	規模(長軸×短軸×深さ)m	長軸方向	覆土	備　　考
ＳＫ０１	Ｐ１	なし	楕円形？	‥ ×1.04×0.45	不明	自然	
ＳＫ０２	Ｍ１	方周01	長方形	1.55×1.13×1.02	N-50°-E	自然	
ＳＫ０３	Ｍ３	SK04	長方形	1.53×1.08×0.49	N-39°-E	人為	
ＳＫ０４	Ｍ２・３	SK03	方形	1.20×1.07×0.44	N-44°-E	人為	
ＳＫ０５	O1	なし	楕円形	‥ ×1.24×1.68	N-69°-E	自然	陥し穴
ＳＫ０６							欠番
ＳＫ０７	Ｎ１	なし	楕円形	2.38×1.97×1.80	N-68°-E	自然	陥し穴
ＳＫ０８	Ｍ３	SK03・04	長方形？	‥ ×0.69×0.10	N- 7°-E	人為	
ＳＫ０９	Ｍ２	なし	楕円形	1.25×0.82×0.27	N-47°-W	人為	
ＳＫ１０	Ｍ１・２／Ｎ１・２	なし	方形	1.02×0.98×0.18	N-66°-E	人為	
ＳＫ１１	Ｄ１	SK12	長方形	‥ ×1.03×0.85	N-62°-E	人為	表土からの掘り込み
ＳＫ１２	Ｄ１	SK11	不明	‥ × ‥ ×0.61	不明	人為	表土からの掘り込み
ＳＫ１３	Ａ３／Ｂ３	SD02	長方形	4.15×1.46×0.63	N- 9°-E	人為	表土からの掘り込み
ＳＫ１４	Ｊ３/Ｋ３	なし	楕円形	4.80×4.55×1.42	N-80°-E	自然	陥し穴
ＳＫ１５	Ｋ３	SI11	楕円形	0.88×0.68×0.53	N-37°-E	不明	
ＳＫ１６	Ｍ２・３	SI12	長方形	1.38×0.95×0.43	N-33°-W	不明	
ＳＫ１７	Ｍ３	SI04・12	不整円形	1.36×1.05×0.28	N-43°-E	不明	
ＳＫ１８	Ｊ２	SK19	不整円形	1.21×1.31×0.70	N- 3°-W	不明	
ＳＫ１９	Ｊ２	SK18	楕円形	2.03×1.32×1.53	N-76°-E	自然	陥し穴
ＳＫ２０	Ｍ１・２	SI01	楕円形	2.70×2.32×2.31	N-61°-E	自然	陥し穴
ＳＫ２１	Ｇ３	SI10	不整円形	1.24× ‥ ×0.76	不明	不明	
ＳＫ２２	Ｆ４	SI10	長方形	1.30×1.04×0.47	N-22°-W	不明	陥し穴
ＳＫ２３	Ｌ２	方周02	楕円形	1.02×0.74×0.60	N-62°-E	不明	陥し穴
ＳＫ２４	Ｋ３	方周02	楕円形	2.32×0.93×1.28	N-63°-E	自然	陥し穴、石鏃
ＳＫ２５	Ｋ２・３／Ｌ３	方周02	楕円形	2.27×1.04×1.20	N-50°-E	自然	陥し穴
ＳＫ２６	Ｌ２	方周02	楕円形	1.88×1.12×0.98	N-42°-E	自然	陥し穴
ＳＫ２７	Ｌ３	方周02	不明	‥ × ‥ ×0.25	不明	不明	
ＳＫ２８	Ｌ３	SK27	不整楕円	‥ ×1.23×0.40	N-19°-E	人為	


1
2
3
4
5 (1/2)
6 (1/2)
7 (1/2)
0
5 cm
(1／2)
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20(1/2)
21(1/2)
0
10cm
(1／3)
0
5 cm
(1／2)

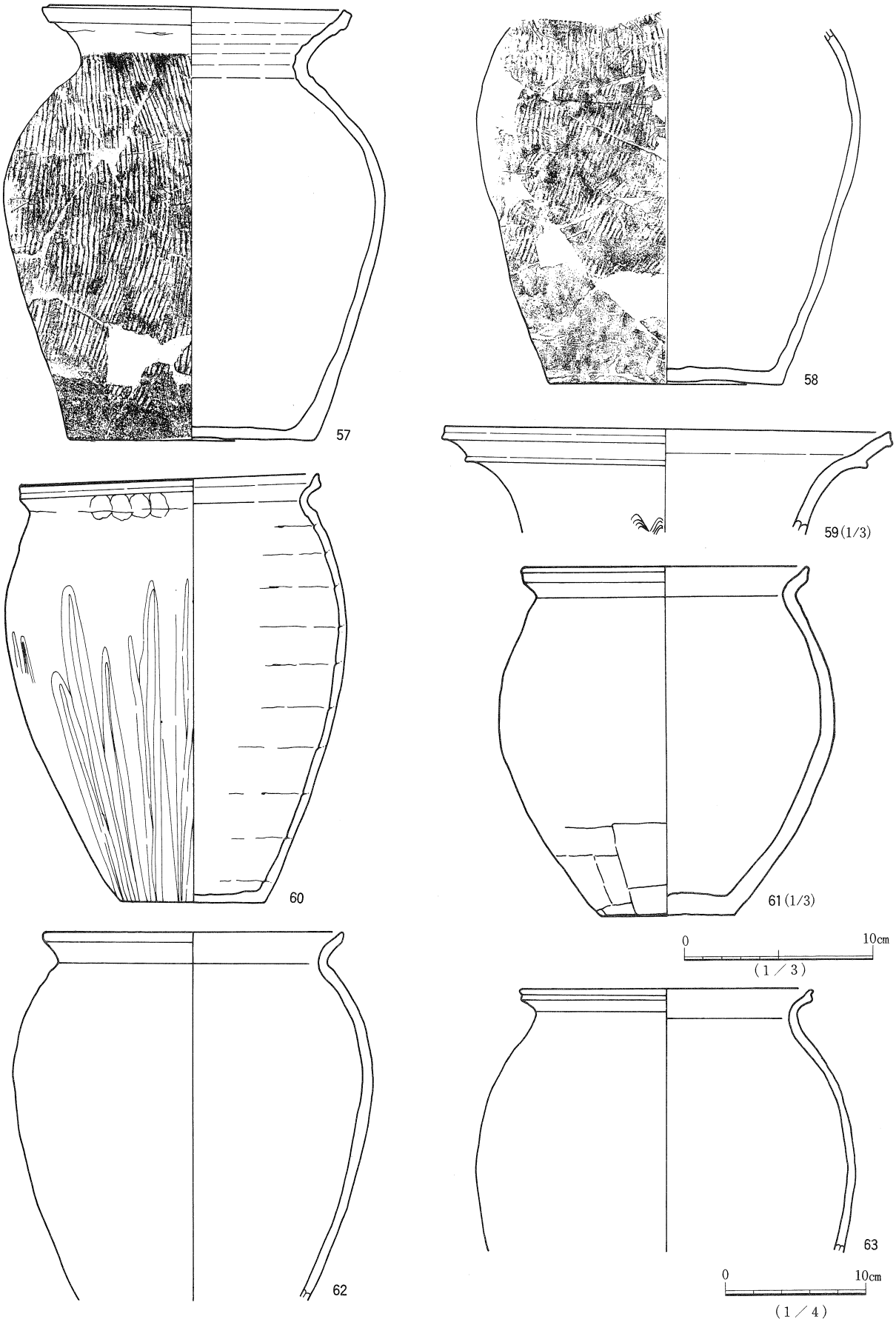
第20図　出土遺物（1）



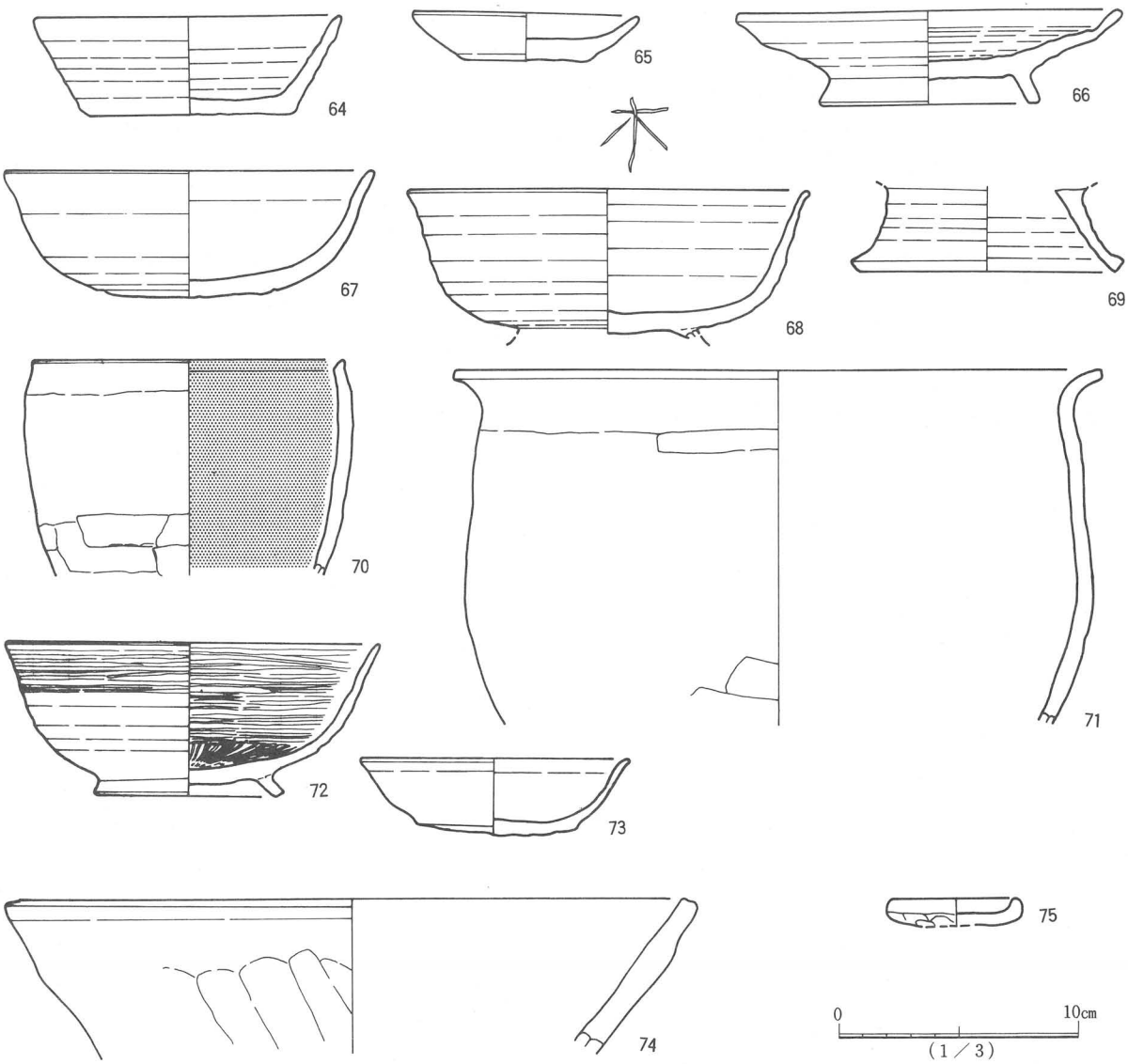
第21図　出土遺物（2）


41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56(1/4)
0
5 cm
(1／2) 42～47
0
10cm
(1／3)
0
10cm
(1／4)

第22図　出土遺物（3）



第23図　出土遺物（4）



第24図　出土遺物（5）

表３　田宮梶の宮遺跡遺物観察表（１）

図版番号	出土遺構	出土位置	種　類	器　種	残存率	胎土（鉄・土・石製品は大きさと重量）	色　調	器形・技法の特徴、その他	焼成
1	ＳＩ０５	覆土	縄文土器	深鉢	3	長石・雲母微粒子	にぶい橙	沈線文系土器	普通
2	ＳＩ０５	覆土	縄文土器	深鉢	3	長石・雲母微粒子	にぶい橙	沈線文系土器	普通
3	ＳＩ０５	覆土	縄文土器	深鉢	3	長石・石英微粒子	にぶい橙	条痕文系土器	普通
4	ＳＩ０５	覆土	縄文土器	深鉢	3	長石・石英微粒子	にぶい橙	条痕文系土器	普通
5	ＳＩ０６	覆土	石　器	石鏃	100	長さ2.8㎝、幅1.8㎝、厚さ0.4㎜、2.3ｇ		チャート	
6	ＳＫ２４	覆土	石　器	石鏃	100	長さ0.5㎝、幅1.7㎝、厚さ0.4㎜、2.1ｇ		チャート	
7	方周０３	覆土	石　器	局部磨製石斧	100	長さ6.7㎝、幅2.9㎝、厚さ1.0㎜、32.5ｇ		頁岩	
8	ＳＩ０５	床面	弥生土器	壷	20	長石・石英微粒・雲母微粒	にぶい橙		普通
9	ＳＩ０５	覆土	弥生土器	壷	10	長石・石英微粒	にぶい橙		普通
10	ＳＩ０５	覆土	弥生土器	壷	5	長石・石英礫少量・雲母微粒	黒		普通
11	ＳＩ０５	覆土	弥生土器	壷	5	長石・石英微粒	にぶい橙		良好
12	ＳＩ０５	覆土	弥生土器	壷	10	長石・石英礫多量	褐灰		普通

表４　田宮梶の宮遺跡遺物観察表（２）

図版番号	出土遺構	出土位置	種　類	器　種	残存率	胎土（鉄製品は大きさと重量）	色　調	器形・技法の特徴、その他	焼成
13	SI05	覆土	弥生土器	壺	5	長石微粒多量	黒褐		良好
14	SI05	覆土	弥生土器	壺	5	雲母微粒子多量	にぶい橙		普通
15	SI05	覆土	弥生土器	壺	20	石英粒多量、雲母微粒少量	褐色	内面コゲ付着	普通
16	SI05	覆土	弥生土器	壺	5	長石微礫中量	橙		やや不良
17	SI05	覆土	弥生土器	壺	5	雲母微粒子多量	にぶい橙		普通
18	SI05	覆土	弥生土器	ミニチュア土器	5	長石微礫少量	にぶい橙		普通
19	SI05	覆土	弥生土器	高坏	10	長石・石英微粒	にぶい橙		普通
20	SI05	床面	土製品	紡錘車	100	径4.0㎝、厚1.7㎝、孔径7.0㎜	にぶい橙		普通
21	SI05	覆土	土製品	紡錘車	80	径4.3㎝、厚1.6㎝、孔径5.5㎜	橙		普通
22	SI07	覆土	弥生土器	壺	30	石英微粒、雲母微粒子	にぶい橙	口縁注ぎ口状、頸部上方からの棒状工具	普通
23	SI07	覆土	弥生土器	壺	5	石英礫多量、雲母微粒子少量	にぶい橙		普通
24	SI07	覆土	弥生土器	壺	5	長石・石英微粒多量	にぶい橙		普通
25	SI07	覆土	弥生土器	壺	5	長石微粒多量	褐灰		良好
26	SI07	覆土	弥生土器	壺	15	長石・石英微粒子	にぶい橙	櫛描沈線による連続山形文	良好
27	SI07	覆土	弥生土器	壺	70	石英礫～微粒多量	にぶい橙		普通
28	SI07	覆土	弥生土器	甕	5	石英礫～微粒多量	にぶい橙		普通
29	SI07	覆土	弥生土器	甕	10	長石・石英礫多量	橙		やや不良
30	SI07	覆土	弥生土器	ミニチュア土器	5	長石微礫多量	にぶい橙		普通
31	SI07	覆土	弥生土器	ミニチュア土器	5	石英微礫中量	橙		良好
32	SI07	覆土	弥生土器	ミニチュア土器	60	石英微粒多量	にぶい橙		普通
33	SI10	覆土	弥生土器	壺	50	石英砂礫	灰褐		普通
34	SI06	覆土	弥生土器	壺	5	長石砂礫、雲母粒少量	黒褐		良好
35	SI06	覆土	弥生土器	壺	5	長石砂礫～微礫多量	黒褐		良好
36	SI06	覆土	弥生土器	壺	10	長石・石英礫多量	にぶい橙		普通
37	方周02	覆土	弥生土器	壺	1	長石・石英微粒子	にぶい橙		やや良
38	SI06	覆土	土師器	器台	60	石英礫～微粒、雲母微粒子	にぶい橙		普通
39	SI13	覆土	土師器	高坏	30	長石・石英礫、同微粒子	明褐		やや甘い
40	方周03	覆土	土製品		70?	石英微礫多量	橙		普通
41	方周02	覆土	弥生土器	壺	30	石英・長石砂粒多量	にぶい橙		普通
42	方周02	覆土	土製品	紡錘車	100	径4.2㎝、厚0.75㎝ 、孔径6.0㎜	橙		普通
43	方周02	覆土	土製品	紡錘車	100	径5.1㎝、厚1.4㎝、孔径5.0㎜、57.3ｇ			普通
44	方周02	覆土	土製品	紡錘車	50	径5.0㎝、厚1.8㎝、孔径9.0㎜	にぶい橙		やや良
45	方周02	覆土	土製品	紡錘車	100	径4.2㎝、厚2.1㎝、孔径7.0㎜、40.7ｇ	にぶい橙		普通

表５　田宮梶の宮遺跡遺物観察表（３）

図版番号	出土遺構	出土位置	種　類	器　種	残存率	胎土（鉄・土・石製品は大きさと重量）	色　調	器形・技法の特徴、その他	焼成
46	方周02	覆土	土師器	勾玉	100	長さ4.5㎝、幅2.2㎝、孔径4.0㎜、24,8ｇ	にぶい橙		普通
47	方周02	覆土	土師器	ミニチュア土器	70	石英砂礫、雲母微粒子	灰褐		普通
48	方周02	覆土４層	土師器	壺	10	石英砂礫多量	橙		やや不良
49	方周02	覆土	土師器	壺	80	石英砂礫多量	にぶい橙		普通
50	方周02	覆土	土師器	甕	10	石英微粒多量、雲母微粒子少量	にぶい橙		良好
51	方周02	覆土	土師器	坩	95	石英砂礫中～多量	橙		普通
52	方周02	覆土	土師器	高坏	60	石英微粒多量・長石砂粒少量	赤褐		普通
53	方周02	覆土	鉄製品	鉄鏃	70	長さ8.2㎝、幅2.4㎝、厚さ0.2㎜、14.0ｇ			
54	方周02	覆土	土師器	高坏	30	石英・長石礫少量、雲母粒多量	灰褐	脚部外面ヘラ磨き	良好
55	方周02	覆土	須恵器	坏	60	石英礫、雲母微粒	オリーブ灰		普通
56	方周02	覆土	須恵器	甕	50	石英・長石砂礫、雲母微粒多量	オリーブ灰		普通
57	方周02	覆土	須恵器	甕	90	石英・長石砂粒少量、雲母微粒多量	明オリーブ灰		やや不良
58	方周02	覆土	須恵器	甕	40	石英・長石礫少量、雲母微粒多量	褐灰		普通
59	方周02	覆土	須恵器	甕	10	黄白色微粒極少量	褐灰		良好
60	方周02	覆土	土師器	甕	70	石英・長石砂粒、雲母微粒	にぶい橙		普通
61	SI01	覆土	土師器	甕	80	石英礫多量、雲母粒～微粒子	にぶい橙	内面中位下半コゲ付着	普通
62	SI01	覆土	土師器	甕	50	石英微礫、雲母粒子	にぶい橙	カマド右袖構築材として転用	普通
63	SI01	覆土	土師器	甕	40	石英微礫多量、雲母微粒中量	橙	外面肩部以下煤付着、カマド左袖構築材	普通
64	SI01	覆土	須恵器	坏	70	長石礫少量、雲母微粒多量	灰褐	底部回転ヘラ切り離し、後一方向ヘラ削り	普通
65	SI08	覆土	土師器	小皿	60	石英礫多量、雲母微粒子少量	橙		普通
66	SI08	覆土	須恵器	高台付皿	80	石英粒、礫、雲母微粒多量	黒	二次焼成	普通
67	SI09	覆土	土師器	高台付椀	55	雲母微粒子多量	にぶい褐	体部内面横位、底面一方向の細かなヘラ	普通
68	SI09	覆土	土師器	高台付椀	60	雲母微粒子多量、石英礫極少量	にぶい褐	体部内面ヘラ磨き、「木」の刻書	普通
69	SI09	覆土	土師器	高台付椀	20	雲母微粒子多量	橙		普通
70	SI09	覆土	土師器	鉢	20	雲母・石英微粒子	にぶい褐	内面黒色処理・横位の細かなヘラ磨き	良好
71	SI09	覆土	土師器	甕	15	雲母微粒子多量、石英礫極少量	橙		普通
72	SI11	覆土	土師器	高台付椀	50	雲母微粒子多量	にぶい橙	内面及び外面上半部磨き	良好
73	SI12	覆土	土師器	小皿	95	雲母微粒子多量	にぶい橙	底部ヘラ切り離し無調整	普通
74	SD3	覆土	常滑	鉢	10	長石礫、鉄分融解粒	褐		良好
75	方周02	覆土	土師土器	小皿	50	長石・石英微粒子	にぶい橙	内面回転ナデ、外底面指頭痕	良好

図版1　調査区全景

調査区全景（北方向より）

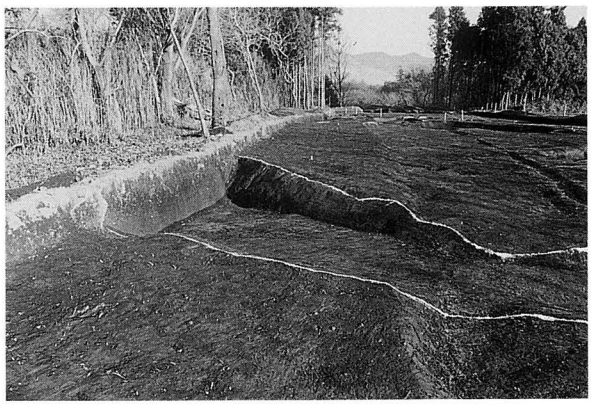
調査区全景

図版2　2号方形周溝墓

2号方形周溝墓全景

北側周溝完掘状況（北東方向より）

南側周溝完掘状況（北東より）

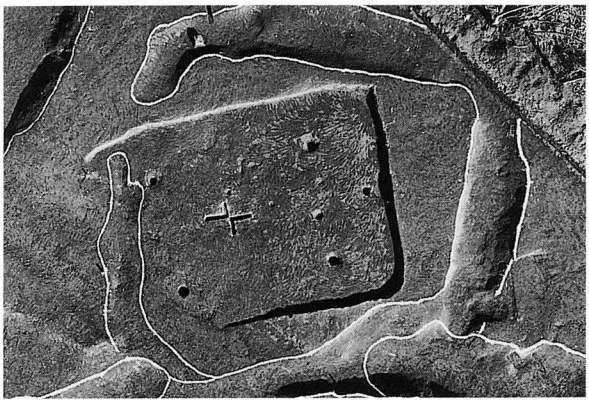


南側周溝完掘状況（南方向より）

南側周溝完掘状況（南西方向より）

図版3　1号・3号方形周溝墓　1号・3号・5号～7号・14号住居跡

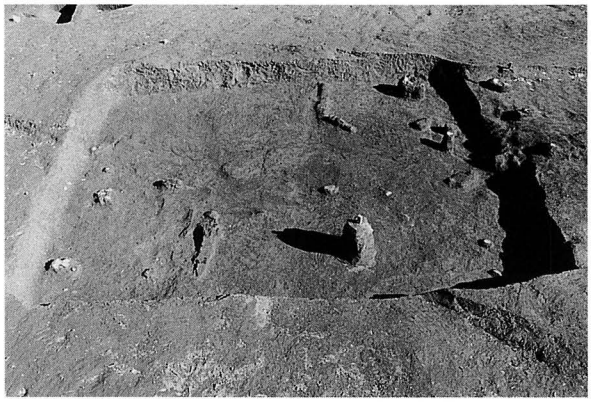
1号方形周溝墓全景（南東方向より）



3号方形周溝墓全景

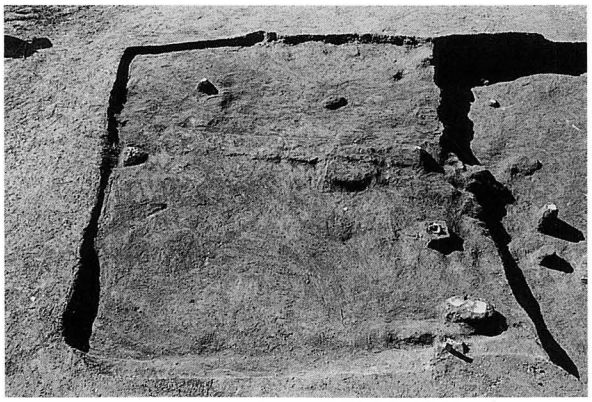
1号住居跡完掘状況（南西方向より）

3号・14号住居跡完掘状況（南西方向より）



5号住居跡遺物出土状況（南西方向より）

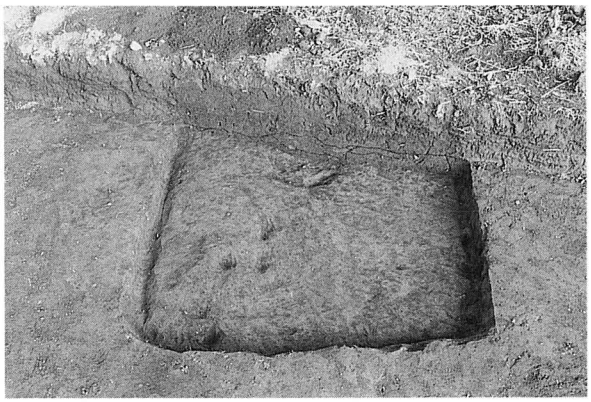
5号住居跡完掘状況（南東より）



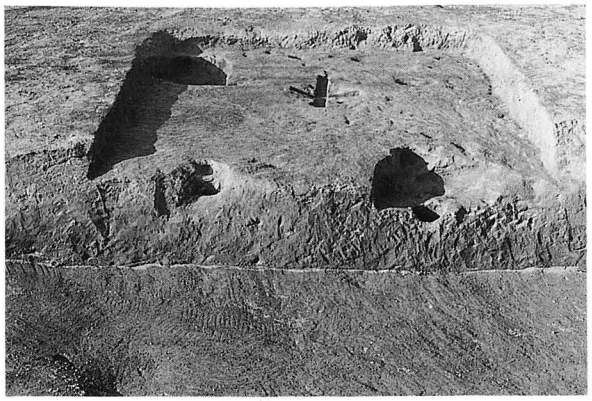
6号住居跡遺物出土状況（北東方向より）

7号住居跡完掘状況（南東方向より）

図版4　4号・9号～13号住居跡　3号・4号・7号・19号土坑



9号住居跡完掘状況（西方向より）



10号住居跡完掘状況（南東方向より）

11号住居跡完掘状況（北西方向より）

4号・12号住居跡遺物出土状況（南東方向より）

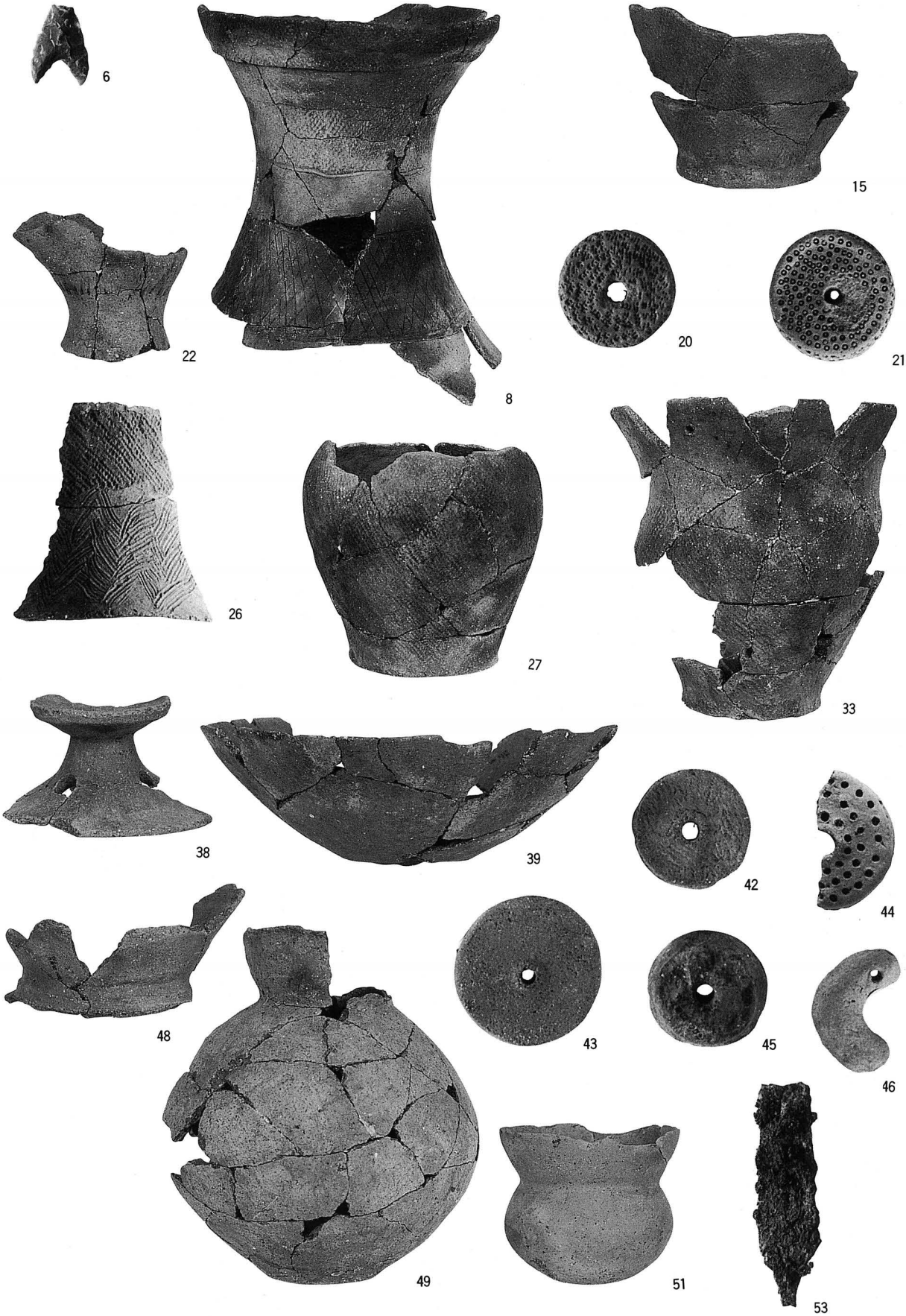
13号住居跡遺物出土状況（北東より）

3号・4号土坑完掘状況（南西より）

7号土坑完掘状況（東より）

19号土坑完掘状況（西方向より）

図版5　出土遺物



図版6　出土遺物

56

57

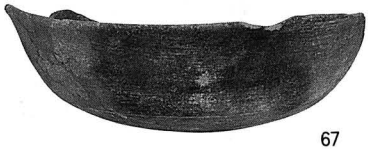
60

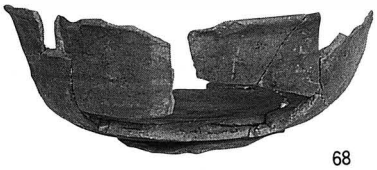
61

62

63

64


67


68

73

抄　　録

ふりがな	たみやかじのみやいせき
書名	田宮梶の宮遺跡
編著者名	高野浩之　土生朗治
編集機関	山武考古学研究所／〒286-0045　千葉県成田市並木町221 番地　TEL　0476-24-0536
発行機関	新治村教育委員会／〒300-4192　茨城県新治郡新治村藤沢975 番地　TEL　0298-62-3511

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
田宮梶の宮遺跡（たみやかじ みやいせき）	茨城県新治郡（いばらきけん にいはるぐん） 新治村大字田（にいはりむら おおあざた） 宮字篠臺921外（みやあざしのだい）	08465	県　2067 村　21	36° 08′ 09″	140° 08′ 51″	2000.10.29 ～ 2000.12.13	1,520㎡	道路新設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
田宮梶の宮遺跡	集落跡 墳墓	弥生時代 古墳時代前期 奈良･平安時代 中世	陥し穴　9基 弥生・竪穴住居　3軒 古墳前期・竪穴住居　2軒 古代・竪穴住居　8軒 方形周溝墓　3基	石器（石鏃）、弥生式土器（壺・土製紡錘車）、土師器（器台・高坏・甕・鉢・坏・坩・高台付皿・高台付椀）須恵器（坏・甕）、土師質土器（小皿）、中世陶器（常滑）	大型の方形周溝墓を確認する。弥生時代後期前半期の土器で赤彩されたものが出土する。

出土遺物等の取り扱いについて

項目		内容
水洗い		・すべて行なった。
注記		・インクジェットプリンターを使用した。 ・遺跡略号（ＴＫＪ）・出土遺構（ＳＩ：竪穴住居、ＳＫ：土坑、ＳＤ：溝跡）・出土層位・遺物番号等を併記した。 ・また、土器細片や石鏃等については、同様の内容を収納したビニール袋に明記した。
復元		・接合は可能な限り行った。必要に応じてエポキシ樹脂を充填し、強度的に必要な最小限の復元を行なった。
実測		・遺物実測図は、報告書掲載分のみ作成した。
台帳		・遺物台帳・図面台帳・写真台帳があり、それぞれの資料の検索が可能であるよう作成した。 ・合計１冊（綴り）
保管方法	出土遺物	・出土遺物は、報告書使用と未使用に分け、コンテナあるいはダンボール箱に収納した。 また、各箱には収容内容を明記した。 ・なお、遺物については、注記番号・台帳番号・報告書掲載番号の３種類が存在するが、基本的に報告書掲載番号を優先して記載・収納してある。

田宮梶の宮遺跡
－発掘調査報告書－

印刷　平成13年３月10日
発行　平成13年３月15日

編集　山武考古学研究所

発行　新治村教育委員会

印刷　㈱ 文化総合企画
TEL　0476-93-0593